

北経連会報

HOKURIKU ECONOMIC FEDERATION



TOYAMA



ISHIKAWA



FUKUI



No. **211**
平成27年10月

CONTENTS

No. 211

会長就任のご挨拶 会長 久和 進

3

総 会

平成27年度 定期総会

特別講演：辻口博啓氏 (モンサンクレール オーナーシェフ)

4

懇 談 会

第2回 北陸産学連携懇談会

10

会員懇談会 石川会場

講演：澤 昭裕氏 (21世紀政策研究所 研究主幹)

12

委員会活動

平成26年度 第2回 先端技術推進委員会

16

平成26年度 第2回 社会基盤整備委員会

17

平成27年度 第1回 広域観光推進委員会

17

平成27年度 第1回 総合対策委員会

18

平成27年度 第1回 総合対策委員会 女性部会

18

平成27年度 第2回 総合対策委員会 女性部会

19

平成27年度 第2回 総合対策委員会

19

新表紙の説明

北陸新幹線の金沢開業を機に会報の表紙を一新いたしました

まずは北陸3県に新時代をもたらす北陸新幹線

各県を代表する写真もこれからを感じさせるものを選びました

富山県：世界で最も美しい湾クラブ加盟記念モニュメントの建つ海王丸パークと新湊大橋
(写真提供：(公財)伏木富山港・海王丸財団)

石川県：石川県の玄関口JR金沢駅のシンボルである鼓門
(JR金沢駅は、米の大手旅行雑誌「トラベル・レジャー」のウェブ版に)
おいて、日本で唯一「世界で最も美しい駅14選」に選出されています
(写真提供：金沢市)

福井県：「恐竜王国福井」を代表する、世界最大級の規模である福井県立恐竜博物館
(国内最大のスケールで、恐竜に特化した博物館の中では、)
世界で3本の指に数えられています

北経連ダイジェスト

北陸先端科学技術大学院大学 見学会	20
金沢港 見学会	20
第328回 常任理事会	21
第94回 理事会	21
第329回 常任理事会	21
第7回 北陸地域連携プラットフォーム	22
中部の観光を考える百人委員会および第12回中央日本交流・連携サミットの開催	22
「北陸新幹線」の建設促進に向けて	23
政府予算等に対する要望活動	28
北陸デスティネーションキャンペーン 共同記者会見	32
第16回 北陸(日本)・韓国経済交流会議	33
北陸環境共生会議 長野県飯田市との意見交換会	36
イノベーション推進事業部だより	37

その他

主要経済指標	39
会員サービスの向上にむけて	40
平成27年度 北経連スケジュール	41
新会員紹介	43
平成27年春の褒章受章者	47
訃報	47
北陸物語 Facebook [出張版]	48
新規会員ご紹介のお願い	49

会長就任のご挨拶



5月に北陸経済連合会会長に就任いたしました。遅くなりましたが、就任の御挨拶を申し上げます。

北陸三県の、そして当会の長年の悲願でありました北陸新幹線が本年3月ようやく金沢まで開業し、半年がたちました。乗車人数は、当初予想を大幅に超え、前年比較で約3倍となり大変な盛り上がりを見せております。この成果は新幹線だけで実現したのではなく、これまで長い間、地元一丸となって北陸の魅力強くアピールしてきた結果と認識しております。

一方、東京一極集中や少子化による地方の大幅な人口減少が危惧され、国においても地方創生が大きなテーマとなっております。東京一極集中の流れを打破し、地方創生を何としても実現させなければなりません。明治以来150年間続いてきた大きな歯車の動きを止め逆転させる必要があります、生易しいことではないと感じております。

幸い富山、石川、福井の三県からなる北陸地域は、人口はさほど多くありませんが、東京、名古屋、大阪の三大都市圏に対して扇の要に位置しており、また、成長著しい東アジア諸国と日本海を介して対面しております。特色ある産業技術の集積や豊かな自然環境、勤勉で優れた人的資源、多彩な歴史・文化など多くの優れた地域特性を有しており、更なる発展の可能性が十分ある地域であります。加えて住み易さでも全国屈指であり、夫婦共稼ぎにより世帯収入も割合多く、地方としては比較的豊かな地域ではないかと考えております。

当会は、これまで富山、石川、福井の各県をはじめとする関係機関と連携を図り、北陸新幹線や高規格幹線道路、港湾などの社会資本整備の促進、環日本海・アセアン諸国との経済交流の促進、産業の振興支援等に積極的に取り組んでまいりました。

今後さらに、観光などによる交流人口の増加だけでなく、北陸新幹線によって、人・企業の流れを大都市から北陸へと向かわせるとともに、社会のニーズにマッチした雇用を創出し、地方定着、地方回帰による定住人口増加を目指したいと考えております。

北陸地域は更なる発展の可能性が十分ある地域であり、地方創生のモデルとなり得る地域だと考えております。そのためには、経済界また当会の果たすべき役割は大きいものがあります。今後とも北陸地域の経済発展のため、これまで以上に北陸三県の経済界の力を結集し、積極的に事業活動を展開してまいります。

皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

北陸経済連合会

会長 久和 達

平成27年度 定期総会

5月19日(火)、常任理事会、理事会終了後、定期総会を開催し、119名が出席した。

定期総会では、第1号議案から第3号議案まで全ての議案が承認され、久和新会長が選出された。また、永原前会長が名誉会長に就任した。

定期総会后、七尾市出身のパティシエ 辻口博啓氏（モンサンクレール オーナーシェフ）に、「夢を叶えるために～夢を持ち続けることの大切さ～」と題してご講演いただいた。辻口氏には、NHKテレビドラマ「まれ」の放映開始に至る経緯や子供絵画コンクールの開催、料理の鉄人に勝利したことなど、興味深いお話をいただいた。

講演会后、懇親交流会を開催、辻口氏にもご出席いただき、盛会裏に終了した。

永原会長 挨拶



平成27年度の定期総会を開催するにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと存じます。

本日は、お忙しい中、このように多数の方々のご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃から、北経連の活動に対し、ご支援・ご協力をいただいておりますことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本日は、このあと、平成26年度の事業報告、平成27年度の事業計画についてご審議いただきますが、その前に若干お話させていただきます。

まずは経済情勢についてですが、一定の景気回復が見られ、北陸にもその効果があらわれてきているようです。

日銀金沢支店長は、14日の定例会見で、「消費

税増税に伴う駆け込み需要の反動減は、おおむね想定範囲内」と述べ、北陸の景気を「緩やかに回復している」として、前月の判断を据え置いています。

4月にとりまとめた当会の会員アンケートでは、景気の足もとは回復基調にあることがうかがえ、平成27年度上期はさらに改善を見込む企業が増加しております。

今後も景気拡大が持続するためには成長戦略の着実な実施や、法人税率の引き下げなどが重要であります。

次に北陸新幹線についてですが、3月14日に金沢まで開業し、金沢から東京までの約450キロが新幹線でつながりました。国の整備計画決定から42年の歳月を経ての開業であり、先人の幾多のご苦勞に思いがおよび感慨深いものがあります。

今回の金沢開業に先立ち、金沢－敦賀間の工期3年前倒しが決まり、併せて福井駅の早期活用等についても検討が行われることになりました。北陸三県の一体的発展のためには、一日でも早い大阪までのフル規格での早期全線整備に向け強く要望していきたい。

当会といたしましては、平成27年度は、これまでの取組みの評価と社会経済をとりまく環境変化を踏まえ、引き続き、災害に強い強靱性を兼ね備えた国づくり、地域産業の競争力強化や、北陸新

幹線の金沢開業効果の最大化に向けた取組みを進めていきたいと考えております。

本年度も北陸地域の自律的、持続的な発展に向

け、今後とも皆様方の変わらぬご支援をお願いいたします。開会の挨拶とさせていただきます。

特別講演



演題：「夢を叶えるために
～夢を持ち続けることの大切さ～」

講師：辻口博啓氏
(モンサンクレール オーナーシェフ)

■「まれ」誕生

どうも皆さんこんにちは。パティシエの辻口博啓です。

今ちょうど、NHKの朝の連続テレビ小説「まれ」で、製菓指導をしております。この「まれ」というのは、能登出身のパティシエを目指す女性の物語で、今は横浜に行きまして、これからたくさんのお菓子たちと出会っていくところです。

実はこの「まれ」という物語ができたきっかけは、制作発表されるだいぶ前に、NHKの高橋練プロデューサーが、僕の半生を描いた書籍『スーパーパティシエ物語ーケーキ職人・辻口博啓の生き方』を持ってきて、「こういうパティシエの物語をドラマ化したい」という話をされたことです。そこから何度か放送作家の篠崎絵里子さんや

NHKの監督を交えて打ち合わせを重ねてきました。

そこからドラマ化されるためには、プロデューサーがさまざまな小説を持ち寄り、最終的な会議に通らなければなりません。当時、高橋さんからは「いろいろご協力いただきましたが、これがドラマになるかどうかは分かりません」と聞いていました。それでもいろいろと話をさせていただいていました。

そんな状況の中、会議の結果が出るということだったのですが、能登を舞台にした「まれ」という朝ドラが決まりました、そういう報告を受けました。

それと同時に、「まれ」の製菓指導をやることになったわけなんです。最初は希（まれ）ちゃんの子どものころのお菓子ということで、あまりにもうまくつくりすぎて、監督から駄目出しを食らいました。「子どもが作ったような不揃いのシュークリームを絞ってください」とか、希（まれ）の年齢と経験に合わせたお菓子を作らなくてはいけない。

今、ようやく横浜編に入り、自由が丘のモンサンクレールというお店のお菓子を使って、希ちゃんが修業に入っている、「マ・シェリ・シュ・シュ」という、Mをデザインしたお店のお菓子をつくっております。

ドラマがどんどん進んでいく上において、辻口博啓役で私もぼろっと出ますので、ぜひ見ていただければなと思っております。

僕自身も30年前にこの石川を離れて、パティシエの道を目指して東京へ行ったわけなんです。その当時は石川にお店を構えるという発想すらな

かったので、おそらく二度と帰ってこない場所であらうなと思いつつ、友達に見送られて七尾駅を出たのを、ついこの間のように思い出されます。

その18歳で出て行ったとき、うちの父親は非常にハンコを押すのが大好きな方で、いろいろな方の借金の保証人になりまして、毎日のようにサラ金の取り立てが来るような状況でした。僕自身は和菓子屋の3代目だったのですが、いつ家がなくなってもおかしくない、おそらくなくなるであろうということを前提に置きながら、東京に旅立ちました。

そこから3年はもつだろうなと思っていたら、2カ月で家ごと、店ごと、すべてなくなりました。それでいったん石川県七尾市に呼び戻されたのです。そのときの私の初任給は4万5千円だったのですが、帰る家もないし、七尾から仕送りすることもできないから戻ってこいということで、母親が就職先を決めておいてくれて、そこで働きなさいという話をされました。

僕はもともとパティシエを目指して行つたのですが、4万5千円という初任給ではどうすることもできず、戻ってきたんですけど、面接日がだんだんと近づくにつれて、僕自身が夢をはせたパティシエの思いがどんどん思い起こされました。

それは実は、小学校3年生のときに食べたショートケーキの味です。友達のバースデーパーティに初めて呼ばれて、出てきたショートケーキだったんですが、それを食べたとき、こんなにおいしいものが世の中にあるのかという感動を受けまして、お皿にクリームがちょっとでもついているのがもったいなくて、お皿をなめていました。すると友達のお母さんがそれを見て、「辻口くんの家にはこんなおいしいお菓子はないでしょう」と言われたんです。僕はそのとき、お皿を顔が映るくらいきれいになめていたものだから、うちの和菓子のほうがおいしいですよとは言えなくて、

非常に悔しい思いをしたのですが、それ以上にそのショートケーキのおいしさに感動しまして、自分もいつかこういう、人を感動させるお菓子をつくりたいなと思ったのです。それが僕の原点です。

面接に行けと言われて、なおさらながら自分自身のなかで浮かんだのは、おそらくうちの母親の言うとおりの、言われるままにそこに就職したなら、素晴らしい企業ではあるんですが、僕自身のやりたいことじゃない。一生母親を恨んで過ごすんじゃないか、そういう思いがありまして、僕は、なんとか3年待ってほしい。もう一回東京でチャレンジさせてくれと頼みまして、アルバイトをして、布団を買って、再度上京したわけです。

その間に、うちの父親が、頑張ったは頑張ったんですけど、なかなか精神的に立ち直れなくて、希ちゃんのお父さんは6年くらい失踪して、津村家に戻ってきたんですけど、うちの父親は10年くらいいなかったんですね。

■世界チャンピオン

それから僕は世界チャンピオンになって、どんどん僕自身が、まだ他の業界の方は分かりませんが、同業種のなかでは、みんなに知ってもらえるようになってきてまして、一緒に共同経営をしたいという方がいろいろと現れました。そんななか、岡山の西さんという方が、辻口さんの夢を叶える店をつくらうじゃないかと言ってくださって、「モンサンクレール」というお店をつくることのできたんです。

■料理の鉄人に勝利

その後、「料理の鉄人」という番組に出させていただくことになりました。それまでパティシエが7人、鉄人に挑戦して全敗していたのですが、僕が8人目で初めて鉄人を破って、そこからさまざまな方が自由が丘の「モンサンクレール」を訪

れまして、自由が丘の流れを変えるお店があるということで、いろいろなメディアに扱っていただきました。

そんななか、NHKの「わたしはあきらめない」という長嶋一茂さんの番組に出て、僕が能登の七尾出身で、紅屋という和菓子屋の3代目だったという話をしました。すると、それがきっかけで父親に再会することができたのです。

そんな話をずっと、「まれ」の台本を書く際に話しておりまして、今日のドラマができあがったというわけです。

さて、これからは、僕自身の事業にまつわる話をしていきたいと思います。

今日は「夢を叶えるために～夢を持ち続けることの大切さ～」というタイトルにしました。僕自身、夢、パティシエになること、人を感動させるお菓子をつくりたい、その一心でこんにちまで来ているわけですが、その夢は、枯れることなく、今もずっと続いています。

■Mont St Clair

「モンサンクレール」は自由が丘の、丘のてっぺんにあります。私は23歳で全国優勝を果たしまして、初めてフランスに行って、そのフランスの地で食べたお菓子、それは日本のそのときの洋菓子の技術では、とても考えられないような美味しさでした。口に入れる芸術だと感じまして、そこからフランス菓子、フランスの文化、フランスのお菓子技術に非常に興味を持ち、フランスのお菓子を学ぶようになっていきました。

そして、南フランス・ラングドック地方のセットという街に修業に行った際、「Mont St Clair (モンサンクレール)」という名前の丘がありまして、私はその丘の上で、僕が日本に帰ったときに、どういってお菓子をつくらうか、どういうコンセプトのお店にしようかという思いをしたためた、そういう場所があるのです。

そのMont St Clairの丘のてっぺんには、ジャポンという文字と矢印が書かれた標識がありました。なんで丘の上にジャポンなのかと、僕はそのフランス語を見て思ったので、僕のオーナーに聞いたところ、実はそのセットという街は、スペインとの国境付近にある街ですけど、そこには海水と淡水が混じり合うトー湖という湖がありまして、カキの養殖が盛んなのですが、実はその技術は日本から教わったということで、日本に敬意を表して、「向こうが日本ですよ」ということを示す「ジャポン」という表示をつくったと聞かせていただきました。僕はその看板の前で、日本は向こうだからと、そちらを向いて、自分自身の思いをしたためていたのです。

自分自身がお店をやるときは、50坪で、厨房で働いている様子が見えて、厨房で使っている器具の音が一つのBGMとなる、五感をフルに使ったお店にしたい、そういう思いでつくり上げたのが、この「モンサンクレール」なんです。

「和楽紅屋」という和スイーツ専門店もやっています。この和楽紅屋というのは、今は亡き父、そして祖父の代から続いた能登・七尾にあった紅屋を復活させるというコンセプトのお店です。僕自身、子どもの頃の親父の横でまんじゅうをこねたり、あんこをくるんだり、そんなことしかしていませんでしたので、和菓子の技術はよく分かりません。なので、パティシエとしてできる和スイーツの専門店として、和ラスクというものを基軸にした和スイーツ専門店の展開しております。

■ル ミュゼ ドゥ アッシュ

そして、2006年、2008年と、石川県で「ル ミュゼ ドゥ アッシュ」がオープンします。加賀屋さんから「せっかく辻口さんは能登出身なんだから、加賀屋の海のところでぜひやってほしい」という話はされていたのですが、僕にとって石川県というのは友達も多くて、癒やしに来るところ

で、商売するところじゃないと思っていたので、お店があると落ち着かないからお断りさせてほしいですと、6回くらい断っていたのです。

ただ、やはり加賀屋さんはさすがだなと思いました。「商売というよりも、辻口くんが七尾で生まれて、世界まで行った軌跡を子どもたちに伝える。こういう小さなところからでも世界につながるということを、しっかりと子どもたちに伝えていこうじゃないか」と言われたのです。そして、そうかと思って、1店舗目を出したのです。

それがはじまりで、今、非常に大きく展開するようになりました。この「YUKIZURI(雪吊り)」というお菓子も、加賀屋さんと一緒にスタートしたお菓子です。

僕はこのお菓子を石川県の銘菓にしたいと思い、後ろに石川県の行事を全部書いて、売上の一部を、子どもの夢のために使わせてほしいと提案させていただきました。

■夢プロジェクト 子ども絵画コンクール

この売上の一部を使って、「辻口博啓夢プロジェクト 子ども絵画コンクール」というものをつくりました。今年で6回目になりますが、たくさんのお子どもたちに参加していただいています。子どもたちに自分の夢を描いていただいて、そして優勝した子どもを、親子ペアでループル美術館に招待しています。

この絵画コンクールでは、たくさんのお優勝者を出したわけなんですけど、特に印象深いのは、第1回の優勝者である男の子です。

当時、小学校4年生だったその子が描いた絵というのは、山の中でたくさんの動物たちと一緒に、お菓子づくりをする、そういうシーンでした。僕はその色使い、構図、バランス感覚、どれを見てもすごく優れたセンスを持っているなと思って、その子をグランプリに選んだんです。

優勝して、初めてその子はループル美術館、本

物と触れました。それに感動して、本人から非常に喜んだ手紙をいただいて、僕もうれしかったんですが、そのあとでもう一通、今度は親御さんからも手紙をいただいたのです。

実はその子は登校拒否をされている子で、学校に行きたくないという子だったのです。それが、あのコンクールでグランプリを獲って、ループルに行って、その世界観を知ってから、少しずつ学校に行くようになって、登校拒否が直りつつある、そういうお手紙でした。

そして次の年、その子は、石川県の絵画コンクールで一本の太い松を描いて、それも優勝されて、そこから完全に不登校が直ったそうなのです。

このプロジェクトには、子どもたちに自信を持たせていくということがあります。僕はこの絵画コンクールを通して、たくさんのお子どもたちに夢を与える、そしてその絵を描く子どもたちの様子で、親がその子どもたちの考えていることを共有していく、そういったことができないかと思っています。この北陸のなかで、ぜひ僕自身が主催しているこのコンクールにたくさんのお子どもを参加させて、夢のために絵を描かせてほしいなと思います。特にこの北陸、この石川県というのは、人間国宝が最も過密しているところであり、手の文化が非常に発達しているところなのです。だからこそ、感性を磨かせる機会をより多くつくり上げることが、これからの日本の一つの礎になるのではないかと思います。

■スイーツを日本の文化に

「スーパースーツスクール」というお菓子教室を自由が丘で2011年からスタートして、たくさんの方々に、僕のレシピでお菓子のできる方を教えています。主婦が多く、家庭でもおいしく作れるコツを教えてください。

そして2012年、学校法人を取得したスーパース

スイーツ製菓専門学校を開校しました。これは国際ビジネス学院との共同運営で、学校法人を取得させていただいて、ここから世界のパティシエを育成するというところでスタートした事業です。

ちなみに、来年の4月からスーパースイーツ調理師専門学校を開校するはこびになっています。この運営は当社でやるのですが、名誉教授として道場六三郎さん、陳建一さん、坂井宏行さん、落合務さんという、4人の名誉教授に就いていただいて、全国初の鉄人の料理学校が、この石川に誕生することになります。

それ以外に、僕自身、日本スイーツ協会という協会をやっております。これはなぜ立ち上げたかという、「スイーツ」という言葉は日本語です、フランスやアメリカで「スイーツ」と言っても通じません。でも「スイーツ」という言葉は、日本人であれば誰でも分かります。僕はそのスイーツというものを一つの軸にして、これを日本

の文化にしたいと思っているのです。

スイーツ協会主催で、「スイーツ検定」を実施して、合格者が今、約700名います。合格した方はスイーツコンシェルジュとして、さまざまなスイーツを軸にしたコミュニティをつくっておられます。

僕はこのスイーツというものをもって、世界平和を掲げているのです。

今、土屋太鳳ちゃんにパティシエとしての所作を教えている最中です。これから太鳳・希(まれ)ちゃんは、また石川県に戻ってきます。あまり先のストーリーはお話しできませんが、間違いなく楽しいドラマになりますから、お楽しみください。

話していると明日の朝までになっちゃう可能性があるんで、このあたりで私の講演を終了させていただきたいと思います。



久和新会長



懇親交流会

第2回 北陸産学連携懇談会



平成27年7月9日(木)、金沢都ホテルにて、大学との連携の一環として昨年より開催している会員大学と当会役員との懇談会を開催した。

懇談会には、今年度新入会の富山県立大学及び北陸大学を含めた全10大学より学長・副学長10名と当会役員11名が参加した。(参加者については次ページ参照)

最初に事務局より当会のこれまでの産学連携について報告した。その後の「地方創生と定住人口の増加」と題した自由懇談では下記の話題について、活発に意見交換がされ、今後実施に向けて北陸産学連携交流会等で検討を進めることとした。

- 産学相互理解のための様々な形での大学見学会の開催
- インターンシップをはじめとした地元企業群に必要な人材を招き入れる施策の検討
- 研究技術開発等も含めた更なる産学連携
- 地方創生に向けた産学連携での取り組み（地域大学としての人材育成）



水口先端技術推進委員長



久和会長



北村総合対策委員長

出席者

大学関係

(敬称略 氏名50音順)

浅野 哲夫	国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学 学長
石川 憲一	学校法人 金沢工業大学 学長
石塚 勝	公立大学法人 富山県立大学 学長
岩井 善郎	国立大学法人 福井大学 副学長
宇多川 隆	公立大学法人 福井県立大学 副学長
遠藤 俊郎	国立大学法人 富山大学 学長
小倉 勤	学校法人 北陸大学 理事長・学長
熊谷 英彦	石川県公立大学法人 石川県立大学 学長
森島 洋太郎	学校法人 金井学園 福井工業大学 学長
山崎 光悦	国立大学法人 金沢大学 学長

北陸経済連合会

(敬称略)

会 長 久 和 進	北陸電力株式会社 代表取締役会長
副 会 長 深 山 彬	株式会社北國銀行 相談役

【総合対策委員会】

委員 長 北 村 耕一郎	キタムラ機械株式会社 取締役会長
--------------	------------------

【社会基盤整備委員会】

副委員 長 吉 田 國 男	ヨシダ印刷株式会社 相談役
---------------	---------------

【先端技術推進委員会】

委員 長 水 口 昭一郎	立山科学工業株式会社 代表取締役社長
--------------	--------------------

【広域観光推進委員会】

委員 長 小 田 禎 彦	株式会社加賀屋 代表取締役相談役
--------------	------------------

【国際交流推進委員会】

副委員 長 藤 本 朋 二	敦賀セメント株式会社 代表取締役社長
---------------	--------------------

専務 理 事	水 野 一 義
常務 理 事	小 林 真
理事 事務局長	角 崎 成 久
理 事 部 長	北 伸 弥

【(一財)北陸産業活性化センター】

専務 理 事	堂 谷 芳 範
--------	---------

会員懇談会（石川会場）



平成27年8月7日(金)、ANAクラウンプラザホテル金沢にて、平成27年度会員懇談会（石川会場）を開催し、会員約110名が出席した。

懇談会では、久和会長の挨拶の後、「北陸新幹線金沢開業効果の持続に向けて」のテーマのもと、西日本旅客鉄道 金沢支社 副社長の山田潤一氏より、開業効果や北陸デスティネーションキャンペーン等の説明が行われ、その後活発な懇談が行われた。

続いて、21世紀政策研究所 研究主幹の澤 昭裕氏に「いま、何を議論すべきなのか？ -エネルギー政策と温暖化政策の再検討-」と題して講演いただいた。



会員懇談会（石川会場） 講演概要



演題：「いま、何を議論すべきなのか？
-エネルギー政策と温暖化政策の再検討-」

講師：澤 昭裕氏
(21世紀政策研究所 研究主幹)

■エネルギー政策を考える視点

皆さんこんにちは。今、ご紹介いただきました21世紀政策研究所の澤です。よろしく申し上げます。

今日はエネルギーについて、電気を中心に考えるわけですが、エネルギーを考えるときには、三つの視点があります。この三つの視点は何回も出てくるので、覚えておいてください。

まず、電気は、量がなくなるとパニックになる。つまり、停電が起こるとパニックになるということです。これが一番のポイントです。

二番目。電気は必需品ですから、値段が高くなると、生活に困る人がたくさん出てくる。特に逆進的なものなんですね。食糧品にかかる消費税を免税にしろという声があります。これは食糧品が必需品だからです。ところが電気にかかる電気料金というのは、必需品にだけかかる消費税みたいなものなわけです。したがって、貧しい者にとって打撃の大きい、逆進的なものであるのが電気料金なんです。逆に言えば、電気料金を上げていく

ことをできるだけ避けることが、非常に重要だということになるわけです。

三番目。環境に優しくない地球が悲鳴を上げる。つまり、温暖化問題です。日本では忘れがちですけれども、地球が暖かくなっていることによって、温暖化だけではなく、気候変動といわれる悪いことがいっぱい起こっていると科学的に言われています。また、政治的にもそれが利用されているという状況があります。したがって、エネルギーは、できるだけクリーンなものを使わないといけないという、この要請があるわけです。

一番目は「安定供給 (energy security)」、二番目は「経済性 (economic efficiency)」、三番目は「環境性 (environment)」。よく、英語での頭文字を取って「3E」と呼ぶんですけれども、日本語で「安定供給」と「経済性」と「環境性」、この三つだと考えていただければと思います。

■エネルギーの安定供給

ご存じのように、1973年のオイルショックのときには、石油を日本に売ってやらないぞと、産油国であるアラブ諸国は脅しをかけてきたわけです。なぜか。イスラエルの友達であるアメリカの親友だったからです。友達の友達は敵だということです。石油が日本に入ってこなくなると大変だと。この時期は石油にもものすごく依存しており、発電の4分の3は石油火力だったわけです。したがって、石油が一滴も入らないということになると、4分の3の電力がなくなるということになります。

東日本大震災で原子力が止まってしまったわけですけれども、原子力は約3割程度のため、ほかのもので埋められたわけです。このときの、7割5分も依存している石油が、仮に一滴も入らないとなると、あっという間に停電だということで、パニックになったわけです。

したがって、今と一緒にすけれども、省エネ、節電をしろ、あるいは石油ですから、ガソリンも関係があるわけで、車に乗らないで歩きましょうとか、いろいろなこと行いましたが、そんなこと

では到底足りないわけです。

オイルショックのせいで、日本はイスラエル寄りだった政策を、アラブ寄りに急展開させます。アラブもよしよし、じゃあ日本に出してやってもいいぞということになって、事なきを得るわけですけれども、このときのエネルギー政策の担当者、あるいは電力会社の人々は、これから先、石油に頼ってはいけません。値段も跳ね上がりますし、石油の量も足りなくなるかもしれない。逆に言えば、石油以外の電源の開発を早くやっておかないとやばいぞということになったわけです。

そして何が始まったかということ、天然ガス、LNG、原子力ということになるわけです。

もちろん原子力は、それ以前から開発はされてきたわけですけれども、ここで拍車が掛かるわけです。そのことによって、原子力は、反対運動ももちろんありましたが、日本の電源、電気使用量が伸びていくなかで、原子力なしでやっていくのかということ、それは絶対に無理だということで、原子力をやり出した。

さらに、天然ガスもやり出した。天然ガスはガス管で海外から輸入できれば、とても安く済むわけですけれども、日本は残念ながら島国なので、ガスを一回、ものすごく冷やして液体にして、特殊なタンカーで運んできて、日本でもう一回温め直してガスにするという使い方をしなければいけない。したがって、このサプライチェーンに何千億という投資をしないと、この頃は手に入らなかったわけです。

したがって、天然ガスも原子力も、相当大きな投資を必要とする電源でしたが、石油に依存していることの恐ろしさから考えたときに、この二つに投資するのは非常に意味があります。例えばLNGは、その当時の東京電力の木川田一隆社長が始めたわけですけれども、そのとき、東電の役員会は全部反対したといわれています。それくらい金がかかる話だったのをやっていったわけです。

人為的にバランスが整うよう投資した結果、も

う一度オイルショックを経たり、チェルノブイリがあったり、スリーマイルがあったり、いろいろなことがあったのですが、なんとかバラエティがある配列に持ってきたわけです。

■電気料金

電気料金はどうだったか。昭和48年、つまりオイルショックのところまでは、わりと安い値段というか、一定の電気料金だったのですが、48年と54年のオイルショックを経ることで、石油の価格はガンと上がりました。さっき言ったように、石油に対する依存度が非常に大きかったので、電気料金の値段がそのまま上がったわけです。

そこから、バラエティが出てきたので、少し下がりはじめますが、平成元年、2年、3年、つまりバブルから、バブルがはじけるころ、電気料金が下げ止まっています。このへんで、経済界からいろいろと文句が出るわけです。電力業界を除く経済界ですけれども、電力ユーザーとして、バブルがはじけて、景気が悪くなって大変だと。さらに円高が進んで、国際競争力も大変だと。それなのに日本の電気代はどうして下がらないんだ、という問題が構造問題として取り上げられるようになったわけです。ここで規制緩和、構造改革という流れが来ました。

実は原子力というのは、量的には、うまく動きさえすれば、ものすごい大量の電気を生み出すことができ、一単位あたりの電気はすごく安くなる。さらにCO₂を出さないわけです。つまり、「安定供給」と「経済性」と「環境性」、この三つともクリアできる電源というのは、原子力しかなかったわけです。

このあと、原子力をもっと増やせばいいじゃないかという議論になっていくんですけども、それに拍車をかけた議論というのが、「鳩山構想」というものです。

■CO₂削減目標

鳩山政権の前の麻生政権のときのCO₂削減目標は8%でした。それが、鳩山政権で突然25%削

減すると言い出した。

このときのCO₂削減目標は、もし25%の削減目標が達成できなかつたら、できなかった分は排出権という証券を海外から輸入して埋めないといけない、ペナルティがかかる目標値です。25%にはさらにトリックがあって、問題は、今から25%ではないということです。それは1990年という、このことを言った時点のさらに20年前に出していたCO₂を、日本は2020年に25%減らしますという目標だったのです。

この鳩山目標を家庭でもちゃんとやってもらいましょうということにすると、今の半分にしなければならぬのです。つまり、実は25%削減目標ではなくて、5割電力消費をカットするという目標なのです。このことを知っている人は、こんなものは絶対に無理だと言っていました。

■エネルギー基本計画

去年(2014年)の4月にエネルギー基本計画ができ、原子力を20%~22%にしましょう、再生可能エネルギーを22%~24%にしましょう、そういう数値目標が出ました。「エネルギーミックス」と呼びます。

この数値目標を見て、再生可能エネルギーをこれまで推進してきた人によっては、こんなに少ないんじゃないか、ちょっとどうかなと言っています。原子力を推進してきた人は、20%~22%なんて少なすぎる。25%以上ないと困ると言っています。両方から批判があるわけですが、こういうエネルギーミックスの性格上、両方側から同じ程度の反対が起こるということは、うまくできたものなのです。ですから、この数値の目標というのは、非常にうまくいっているということです。

電気料金は、震災後、産業用は全国で言うと3割も上がっています。さらに家庭用は2割も上がっています。再生可能エネルギー固定価格買取制度、これはすでに、日本の国民一人当たり1万円払っている勘定になります。これからどんどんいくと、2.7兆円まで増えていきます。アベノミクスではありませんが、電気料金が上がると、賃

金に廻るお金が電気料金に費やされてしまうわけです。そのようなこともあって、これはもう、これ以上上げないという目標をつくったわけです。

再エネを1%増やして、原子力を1%下げる。つまり原子力を再エネで置き換えたら、プラス2,200億円という数字が出てきますが、これは国民負担が2,200億円増えますということを表しているわけです。つまり、再エネを増やすと電気料金を引き下げるという約束は守れませんということになるわけです。

逆に、例えば石炭を1%増やして、再エネを1%減らせば、1,800億円の節約になるんだけど、CO₂は840万トンも増えてしまいます。だから欧米に遜色のある数値しか出せませんということになるわけです。

自給率をさらに改善したい場合、電力コストをさらに引き下げると、CO₂をさらに削減する場合みたいなことがありますけれども、プラス、マイナスが混ざっているというのは、何かを抑えると、こっち側でぷくっと膨らむみたいな、そういう関係にあるということでもあります。

■原子力規制委員会の役割

「再稼働を認める原子力規制委員会なんて要らない」というプラカードを、反原発側の人たちがデモをするときに持って歩いていたのを、テレビに映っていたのを見ましたが、あれほど間違えているプラカードはありません。原子力規制委員会というのは、安全に動かすために存在している行政機関なのです。

別の言い方をすると、例えばアクセルとブレーキという言い方があります。原発事故以降、福島事故があったあと、もともと経済産業省という、原子力を推進している組織に、原子力安全保安院というのがあるのは、おかしいんじゃないかと。アクセルを踏む役所のなかに、ブレーキをかけるはずの組織が一緒にあるのは、おかしいんじゃないかということで分離したと、よくいわれています。あれは根本的な間違いです。間違いというのは、比喩が間違えているわけです。つまり、規

制委員会というのは、ブレーキを踏む役割を持っているものではないということです。

では、どういうことなのか。規制委員会は安全基準をつくって、確認する組織なのです。

車の例で言うと、今から走らせようとする車に、ちゃんとブレーキが付いていますよね、アクセルも付いていますねということ、確認する組織なのです。ブレーキを踏むのは事業者なのです。規制委員会が踏むのではないのです。

安全というのは、規制委員会ではなくて、事業者に、第一義的責任があるわけです。これはIAEAの原則にも書いてあるし、「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」にも書いてあるわけです。

規制委員会からオーケーをもらうというのは、必要条件、つまり車を走らせていいというライセンスだけをもらうわけです。皆さんもお持ちでしょうけれども、自動車のライセンスをもらったからといって、公安委員会が自分に安全だということお墨付きをくれたなんて、誰も思わないじゃないですか。あれとまったく一緒です。

安全規制をちゃんと適用して、再稼働に持って行くことが、規制委員会の役目なのです。

ご清聴、ありがとうございました。



平成26年度 第2回 先端技術推進委員会



平成27年3月24日(火)、金沢都ホテルで、平成26年度 第2回 先端技術推進委員会を開催し、水口委員長はじめ12名の委員が出席した。

今年度の事業の実施状況を報告し、次年度の事業計画案について審議した。



水口委員長

委員からの主な意見

- 盛りだくさんの施策であり、優先順位を考慮して実施すべきである。
- 平成27年度のポイントは産学金官だと思っており期待している。
- 大学はそれぞれ個性があり、いかに活用するかが大事である。是非うまく活用してほしい。

委員会終了後、講演会「人工知能・スーパーコンピュータはここまで来た！」を開催し、東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター教授 宮野 悟氏より「がんとスーパーコンピュータ」と題して遺伝子情報解析について、日本IBM(株) 成長戦略ワトソン担当理事 元木 剛氏より「学習するシステム Watson」と題して人工知能ワトソンの最新動向について講演を行い、企業・団体から約60名が聴講した。



日本IBM(株) 元木理事



東京大学 宮野教授

平成26年度 第2回 社会基盤整備委員会



平成27年3月27日(金)、平成26年度 第2回 社会基盤整備委員会を開催し、山崎委員長をはじめ12名の委員が出席した。

委員長の挨拶の後、「平成26年度社会基盤整備委員会の事業評価および平成27年度の事業計画(案)」等について審議し、原案通り承認された。

各委員からは、北陸新幹線の今後や、北陸の港湾整備等に対し活発に発言があり、意見交換を行った。

委員からの主な意見

- 北陸新幹線は金沢まで開業したが、北陸地元としては敦賀までの早期完成・開業が重要。
- 大阪までつなげることは大事。東海地震等を考えると国策でやらなければいけない。

平成27年度 第1回 広域観光推進委員会



平成27年度4月7日(水)、第1回 広域観光推進委員会を開催し、小田委員長をはじめ7名の委員が出席した。

小田委員長が「金沢開業を迎えた北陸新幹線により、観光への具体的効果も表れてきており、兼六園や金沢、富山の土産店は過去最高を記録して上々の立ち上がりである。また、金沢-敦賀間の工期3年前倒しが決定、福井駅の早期活用等についても検討されることとなり、北陸三県の一体的発展のためには誠に喜ばしい限り。今後も引き続き、一日でも早い大阪までのフル規格での早期全線整備に向け強く要望していきたい」と挨拶した。

その後、「平成27年度事業計画(案)」等について審議し、原案通り承認された。

委員からの主な意見

- 教育旅行は、大体、2年前に決まる。将来リピーターとしてその地を訪れることもあり、誘致することは大変良い。広島での平和学習、東北の震災学習など、何をしに北陸を訪れるかを明確にしなければならない。
- 観光で1県で完結するのは、沖縄と北海道、あとは2県以上にまたがる。広域連携が必要。
- 外国人もあちこちで見かける。インバウンドで色々なルート策定し、バスを提供しなければならないと考えている。開業日前後はとてもにぎわったが、バスには乗っていなかった。2週間たって観光客が増えたが、市内の定期観光バスが意外と少ない。足を伸ばそうというところまでいっていない。

平成27年度 第1回 総合対策委員会



平成27年4月9日(木)、金沢都ホテルで平成27年度 第1回 総合対策委員会を開催し、北村委員長をはじめ15名が出席した。

北村委員長のあいさつ後、以下の議題について意見交換を行った。

- ①平成26年度 総合対策委員会の事業評価について
- ②平成27年度 北陸経済連合会 事業計画(案)について

このほか、今年度の政府要望ワーキング工程等に関する報告を行った。



北村委員長

委員からの主な意見

- 北陸新幹線金沢開業後は、どんどん交流人口が増加する。これを大いに利用することが大事。
- 長期的には産業基盤をいかに拡大するかが大事。そのためには資源としての「人」をいかに活かすかが重要。

平成27年度 第1回 総合対策委員会 女性部会



平成27年4月10日(金)、第1回 総合対策委員会 女性部会を金沢市内の北陸電力石川支店にて開催した。

浅野邦子部会長((株)箔一 代表取締役会長)、森田弘美副部会長((株)グループフィリア 代表取締役社長)をはじめ6名の委員、オブザーバー1名の計7名が出席した。

3月に開催した前回同様、北陸電力(株)女性WGメンバーを迎え、再度「育児と仕事の両立」をテーマとした意見交換が活発に行われた。子供が小学校に進級する際に直面する、いわゆる「小1の壁」への対応、夫や上司などの男性側のサポート等について、様々な意見が出された。

部会終了後、当会女性部会員のみによる今年度事業の検討を行い、加えて先の意見交換では議論し尽くしえなかった「育児と仕事の両立」について、更に深い意見交換が行われた。



浅野部会長

平成27年度 第2回 総合対策委員会 女性部会



平成27年6月1日(月)、第2回 総合対策委員会 女性部会を金沢都ホテルにて開催した。

浅野邦子部会長、森田弘美副部会長をはじめ、今年度より新たに入会され、福井県からは初めてとなる(株)ブリッジ 橋脇典子代表取締役社長、(株)トゥー・アー・ティー 堀内康代表取締役の2名も含めた10名の委員、オブザーバー1名の計11名が出席した。

会合は二部構成で、まずは北陸新幹線の金沢開業後の特に観光分野における光と影の部分について、また後半では、現在取りまとめている「政府に対する北陸経済界からの要望書」における女性の活躍推進に向けた項目について、それぞれ女性の視点に基づいた活発な意見交換が行われた。



平成27年度 第2回 総合対策委員会



平成27年7月9日(木)、金沢都ホテルで平成27年度 第2回 総合対策委員会を開催し、北村委員長をはじめ9名の委員が出席した。

委員会では、「政府に対する北陸経済界からの要望書(案)」について審議を行った。参加者からは、北陸新幹線、高規格幹線道、港湾、空港といった社会インフラ整備の整備促進、持続的な経済成長に向けたエネルギー政策の実施、地域産業活性化や女性の継続就業、人・企業の地方定着・地方回帰、観光振興など地方創生に向けた支援強化といったこれまでの要望に加え、地方の特色を活かした地方大学の機能維持に向けた支援に向けた要望が大学側の要望として提出され、要望案に反映することとなった。



北陸先端科学技術大学院大学 見学会



平成27年5月8日(金)、北陸先端科学技術大学院大学からのご提案で、総合対策委員会・先端技術推進委員会・国際交流推進委員会合同見学会及び意見交換会を開催し永原会長、水口先端技術推進委員長をはじめ23名が参加した。

見学会では、先端大が有する最先端の分析装置やスーパーコンピューター等の活用事例及び産学連携の具体的な活動、更にはその教育環境下で実施される人材育成方針についてご紹介いただいた。その後の意見交換会では大学、当会会員双方より更なる産学連携に向けての要望や意見が活発に交わされた。



実施される人材育成方針についてご紹介いただいた。その後の意見交換会では大学、当会会員双方より更なる産学連携に向けての要望や意見が活発に交わされた。



金沢港見学会



平成27年5月13日(水)、国交省金沢港湾事務所のご厚意で、総合対策委員会・社会基盤整備委員会・広域観光推進委員会合同金沢港見学会を開催し21名が参加した。

前日の台風の影響でクルーズ船の寄港が中止されたが、金沢港の活用状況や北陸の港湾整備について説明を受けた後、金沢港湾内の施設を国交省業務艇「わかな」に乗船し、海上より見学した。

見学会後は、福元金沢港湾事務所長他国交省の皆様、金沢港振興協会福田専務理事との意見交換会を実施した。福田専務から金沢港クルーズ・ウェルカム・クラブの活動などを紹介をいただいた他、北陸の港湾の活用について活発な意見交換が行われた。



第328回 常任理事会



5月19日(火)、第328回 常任理事会を開催し、20名が出席した。

平成27年度定期総会の議案である以下の議案について審議し、原案どおり了承され、同日の理事会に付議されることになった。

- 第1号議案 平成26年度事業報告および決算承認の件
- 第2号議案 平成27年度事業計画および収支予算(案)審議の件
- 第3号議案 役員改選の件

なお、永原会長から、「今限りで会長の職を辞し、後任会長には、常任理事である「久和 進」北陸電力社長を推薦する」との提案が出され、理事会にて付議されることになった。

第94回 理事会



5月19日(火)、常任理事会終了後、第94回 理事会を開催し、38名が出席した。

理事会では、常任理事会と同様、平成27年度定期総会の議案が承認され、定期総会に付議することとなった。

第329回 常任理事会



7月15日(水)、金沢市の金沢都ホテルにて、第329回 常任理事会を開催し、16名が出席した。

【審議事項】

- (1) 広域観光推進委員会の委員長交代について会長から説明し了承された。
新委員長：加藤 敏彦氏
(北陸鉄道株式会社代表取締役社長)
- (2) 「政府に対する北陸経済界からの要望書(案)」について事務局から説明し了承された。

【報告事項】

- (1) 役員・参与の交代について事務局から報告した。
- (2) 北陸のスローガン・ロゴについて事務局から報告した。

役員・参与の交代

1. 常任理事

○代表者変更

- 福井県商工会連合会
会長 佐飛 敏治氏 5/25付
(池田町商工会会長、佐飛電機社長)

2. 理事

○代表者変更

- 北陸電気工事株式会社
代表取締役社長 三鍋 光昭氏 6/26付
- 北陸通信ネットワーク株式会社
代表取締役社長 松島 英章氏 6/26付

3. 参与

○異動

- 富山経済同友会
事務局長 奥沢 健氏 7/1付

第7回 北陸地域連携プラットフォーム

平成27年6月9日(火)、北陸三県の経済団体や金融機関等が集まり、北陸地域経済の課題を議論する北陸地域連携プラットフォームの第7回会合が開催され、当会の水野専務理事が出席した。

今回は「北陸新幹線開業を追い風とした地方創生・地域活性化」をテーマに、北陸財務局より「能登地域や金沢以西等への地域的波及、ものづくりなど観光業以外の関連産業への波及もみられはじめている」「企業による工場新設や本社機能の移転など産業面での効果が北陸地域に波及している」など、北陸新幹線の金沢開業による波及効果が説明された他、財務局が行っている地方公共団体の財務状況把握や、企業からも人手不足の声が上がっている雇用情勢等の紹介があり、その後、北陸の地方創生に向けた活発な意見交換を行った。

詳細は、北陸財務局HP (<http://hokuriku.mof.go.jp/kouhou/platform.html>)、また、当会HPからもご覧いただけます。

北陸地域連携プラットフォームメンバー

(H27.6.9時点)

〈学識経験者〉	福井県立大学 経済学部准教授	桑原 美香
【座長】	金沢大学 顧問(前学長)	中村 信一
〈 県 〉	富山県 知事政策局長	山崎 康至
	石川県 企画振興部長	藤崎雄二郎
	福井県 総合政策部長	山田 賢一
〈経済・商工団体〉	富山県経営者協会 会長	稲垣 晴彦
	福井県商工会議所連合会 会頭	川田 達男
	石川県経営者協会 会長	菱沼 捷二
	北陸経済連合会 専務理事	水野 一義
〈女性経営者〉	(株)ユニゾーン 代表取締役会長	梅田ひろ美
	(株)シーピーユー 代表取締役	宮川 昌江
〈金融機関〉	北陸地区信用金庫協会 副会長	大林 重治
	北陸銀行 取締役専務執行役員	中野 隆
	北國銀行 専務取締役	杖村 修司
	福井銀行 取締役兼代表執行役専務	林 正博
	日本政策投資銀行 北陸支店長	古田 善也
〈マスコミ〉	北日本新聞社 論説委員長	岩本 聡
	福井新聞社 参与特別論説委員	北島 三男
	北國新聞社 取締役論説主幹	横山 朱門
〈北陸財務局〉	局長	竹田 伸一
	総務管理官	岸山 敏浩
	理財部長	藤井 宣明
	管財部長	今田 博之

中部の観光を考える百人委員会および 第12回中央日本交流・連携サミットの開催

平成27年8月31日(月)、名古屋市内で中部の観光を考える百人委員会主催の「中部の観光を考える百人委員会」が開催され、三田 中部経済連合会会長、鈴木 国土交通省中部運輸局長、江角 国土交通省北陸信越運輸局長、大村 愛知県知事、河村 名古屋市長など中部・北陸の委員約80名が集まった。当会からは水野専務理事が代理出席した。

岡谷 東海商工会議所連合会会長の挨拶の後、吉田 観光庁観光地域振興部長は来賓挨拶で「国際観光の伸びが顕著、昇龍道などの広域連携ルートをさらにPR・推進したい」と昇龍道プロジェクトに期待を寄せた。

その後、「観光づくりと広域連携について」とのテーマで討議され、川勝静岡県知事、鈴木三重県知事など10名余りが意見を述べた。最後に、須田 日本観光振興協会中部支部長が提言をまとめ、満場一致で採択された。

引き続き、第12回 中央日本交流・連携サミットが開催され、キャスターで事業創造大学院大学客員教授の伊藤聡子氏がコーディネーターを務め、三田俊雄 中部経済連合会会長、川勝平太 静岡県知事、大村秀章 愛知県知事、鈴木英敬 三重県知事、河村たかし 名古屋市長等がパネラーとして登壇し、「中部圏における地方創生に向けた取り組み一個性と魅力溢れる中部圏の実現に向けて」をテーマにパネルディスカッションが行われた。経済界、行政など約400名が参加した。

「北陸新幹線」の建設促進に向けて

富山県北陸新幹線対策連絡協議会・北陸新幹線建設促進富山県民協議会 合同決起大会

平成27年5月25日(月)、富山市の富山第一ホテルで、「富山県北陸新幹線対策連絡協議会・北陸新幹線建設促進富山県民協議会 合同決起大会」が開催された。

石井富山県知事をはじめ、田畑衆議院議員、堂故参議院議員ら富山県選出国會議員、高平富山県議會議長、沿線自治体首長、高木富山県商工会議所連合會會長(北経連副會長)等、230名が参加して開催された。当連合會からは、久和會長が参加した。

石井知事は挨拶の中で、「県民の半世紀近い悲願であった新幹線が開業した。先人の皆様、国会の先生方、経済界の皆様など、これまでのお力添えに感謝申し上げる。北陸新幹線は日本海側の国土軸の中核をなす国家プロジェクトであり、敦賀までの開業、さらには早く大阪までフル規格でつなげたい」と述べた。

久和會長は、地元経済界を代表して「北陸新幹



線によって、人・企業の流れを大都市から北陸へ向かわせ、定住人口増加による地域力の向上を目指したい。また観光についても持続的な訪問先となるよう



に取り組んでまいりたい」と述べ「引き続き関係各位、他経済団体と連携し、大阪までのフル規格での早期全線整備に向けた取り組みを行っていく」と挨拶した。

森富山市長より、以下の決議案が提案され採択された。

大会決議(要旨)

日本海国土軸の形成に必要な不可欠な国家プロジェクトである北陸新幹線に求められる役割がこれまで以上に大きくなっている。3月に長野・金沢間が開業し、沿線地域に顕著な開業効果が現れており、金沢以西の全線を早期に整備する必要がある。「整備新幹線の取扱いについて(平成27年1月14日政府・与党申合せ)」に基づき、金沢・敦賀間の整備を着実に進めるとともに、沿線住民の長年の悲願である北陸新幹線のフル規格による全線整備が一日も早く実現されるよう、次の事項について格段の配慮をされるよう要望する。

- ① 金沢・敦賀間について、平成34年度末までの開業が確実に実現するよう整備を促進するとともに、敦賀駅における旅客利便性の確保を図ること。福井先行開業について、検討を進めること。
- ② 十分な建設財源を確保するとともに、公共事業費の拡充・重点配分、貸付料の活用など必要な財源を確保し、整備スキームを見直すこと。
- ③ 大阪までのフル規格による整備方針を早期に明確化し、あらゆる手段を尽くして大阪まで早期全通を図ること。
- ④ 地方負担について、沿線の自治体に過度の負担が生じないように、コスト縮減や十分な財政措置を講ずるとともに、負担に見合う受益の確保を図ること。

⑤ 並行在来線が存続できるよう、これまでの枠組みの再検証・見直しを行い、新たな仕組みを早急に構築するとともに、支援施策の充実を図ること。

⑥ 諸課題に対応するため、公共事業費の拡充・重点配分、JRからの貸付料の活用など、幅広い観点から十分な財源を確保すること。

北陸新幹線建設促進大会・北陸新幹線建設促進同盟会総会、及び中央要請

平成27年5月27日(水)、東京のホテルニューオータニで、「北陸新幹線建設促進大会・北陸新幹線建設促進同盟会総会」が開催された。沿線の各県知事・議会議長、各県選出の国会議員、鉄道・運輸機構、関西広域連合、関西経済連合会等、約270名が参加した。当連合会から、久和会長、深山副会長、川田副会長、高木副会長が出席した。



同盟会会長である石井富山県知事は、挨拶の中で「北陸新幹線、長野、富山・金沢がついに開業した。ご参会の先生方、先人の諸先生方、関係の皆様のご尽力に対し、御礼申し上げます。最終的にルートを決めるのは国であり、沿線各地域の意見を踏まえ、大阪までのフル規格による整備方針を早期に明確化し、一日も早く全線開通が成し遂げられるようお願いしたい」と述べた。

久和北経連会長は、「北陸新幹線は、成長戦略の基盤であり、経済波及効果と東海道新幹線の代替補完機能を有しているが、大阪まで延伸してこそ、その力を十分に発揮する。敦賀までの確実な早期開業、大阪までのフル規格での早期全線整備



が何としても必要。国家プロジェクトとして速やかに進めることを強く要望する」と要請した。

また、関西経済連合会の辻リニア・北陸新幹線担当委員長は、「東京一極集中と地方の疲弊が同時進行しており、国家的見地から首都圏以外にも、政治経済の核が存在する複眼型の国土構造を形成すべきである。北陸新幹線の全線フル規格での早期開業をめざし、国に強く働きかける決意である」と述べた。



午前中に大会を終え、午後からは、沿線の各県知事、各県議会議長らとともに久和会長、深山副会長、川田副会長、高木副会長は、国土交通省・財務省・自民党・公明党を訪問し要請活動を行った。

要請文（要旨）

日本海国土軸の形成に必要な不可欠な国家プロジェクトである北陸新幹線に求められる役割がこれまで以上に大きくなっている。3月に長野・金沢間が開業し、沿線地域に顕著な開業効果が現れており、金沢以西の全線を早期に整備する必要がある。「整備新幹線の取扱いについて（平成27年1月14日政府・与党申合せ）」に基づき、金沢・敦賀間の整備を着実に進めるとともに、沿線住民の長年の悲願である北陸新幹線のフル規格による全線整備が一日も早く実現されるよう、次の事項について格段の配慮をされるよう要望する。

① 金沢・敦賀間について、平成34年度末までの開業が確実に実現するよう整備を促進するとともに、敦賀駅における旅客利便性の確保を図ること。福井先行開業について、検討を進めること。

- ② 十分な建設財源を確保するとともに、公共事業費の拡充・重点配分、貸付料の活用など必要な財源を確保し、整備スキームを見直すこと。
- ③ 大阪までのフル規格による整備方針を早期に明確化し、あらゆる手段を尽くして大阪まで早期全通を図ること。
- ④ 地方負担について、沿線の自治体に過度の負担が生じないように、コスト縮減や十分な財政措置を講ずるとともに、負担に見合う受益の確保を図ること。
- ⑤ 並行在来線が存続できるよう、これまでの枠組みの再検証・見直しを行い、新たな仕組みを早急に構築するとともに、支援施策の充実を図ること。
- ⑥ 諸課題に対応するため、公共事業費の拡充・重点配分、JRからの貸付料の活用など、幅広い観点から十分な財源を確保すること。

●訪問先は、次のとおり。（訪問順）

- 自由民主党 二階総務会長
- 自由民主党 塩谷政務調査会長代行
- 国土交通省 北川副大臣
- 自由民主党 細田幹事長代行
- 公明党 井上幹事長
- 公明党 漆原中央幹事会会長
- 公明党 石井政務調査会長
- 財務省 竹谷大臣政務官
- 総務省 あかま大臣政務官



自由民主党 二階総務会長



自由民主党 塩谷政務調査会長代行



国土交通省 北川副大臣



自由民主党 細田幹事長代行



公明党 井上幹事長・漆原中央幹事会会長・石井政務調査会長



財務省 竹谷大臣政務官



総務省 あかま大臣政務官

北陸新幹線建設促進石川県民会議 平成27年度総会

平成27年7月11日(土)、金沢市の石川県地場産業振興センターで、「北陸新幹線建設促進石川県民会議平成27年度総会」が開催された。

谷本石川県知事(県民会議名誉会長)、深山石川県商工会議所連合会会頭(県民会議会長)をはじめ、岡田自民党整備新幹線等鉄道調査会幹事長ら石川県選出国會議員、久和北経連会長、出野関経連常務理事など約1,000名が出席した。

谷本知事は挨拶の中で、「開業後、県下全域で開業効果が見られている。敦賀開業前倒しをうけ、沿線の市と連携し、用地取得に万全を期したい。金沢以西の全線整備にむけ、沿線各県、関西経済連合会、関西圏と連携し、できる限り努力する」と述べた。

岡田参院議員は敦賀以西について、個人的見解として「現実的には、米原に繋ぐことが有力な選択肢になる。検討委員会の中で、そのように私は申し上げたいと思う」と述べた。



久和会長は、北陸の経



済界を代表して「敦賀までの早期開業、大阪までのフル規格による早期全線整備が必要。北陸新幹線により、人・企業の流れを大都市から北陸へと向かわせ、定住人口の増加による地域力の向上を目指したい」と述べた。

宮石川県青年団協議会会長より、以下の決議案が提案され採択された。

総会決議(要旨)

北陸新幹線は、沿線地域の飛躍的な発展や日本経済の底上げを図るうえで極めて大きな効果をもたらすものである。去る3月14日、長野・金沢間

が開業し、沿線地域に顕著な開業効果が現れているところである。石川県民の長年の悲願である北陸新幹線のフル規格による全線整備が一日も早く実現されるよう、次の事項について強く要望する。

- ① 金沢・敦賀間について、平成34年度末までの開業が確実に実現するよう整備を促進すること。さらに、金沢・福井間の先行開業について検討を進めること。
- ② 金沢駅・小松駅間に白山駅（仮称）を設置す

ること。

- ③ 敦賀以西のルート決定に向けた調査等を進め、大阪までのフル規格による整備方針を早期に明確化し、大阪までの早期全通を図ること。
- ④ 並行在来線の安定的な経営に向けた支援施策の充実を図ること。
- ⑤ 事業を積極的に推進するため、幅広い観点から十分な財源を確保するとともに、沿線の地方自治体に過度の負担が生じないように、十分な財政措置を講じること。

福井県北陸新幹線建設促進同盟会総会

平成27年7月25日(土)、福井市の福井県国際交流会館で、「福井県北陸新幹線建設促進同盟会総会」が開催された。

西川福井県知事をはじめ、山崎参議院議長ら福井県選出国會議員、笹岡福井県議會議長、沿線自治体首長、久和北経連会長、辻関経連リニア・北陸新幹線担当委員長等、約170名が出席した。

西川知事は挨拶の中で、「金沢－敦賀間は、1月に政府与党の申し合わせによって、3年の前倒しが実現した。関係団体の多くの方々へ感謝申し上げる。敦賀以西ルートについて、沿線の意見を聞き、国が決定することになっているが、日本海側の国土軸の強化や、東海道新幹線の代替機能の相互補完の見地から、若狭ルートの意義や重要性を説明し、理解を求めている」と述べた。

高木衆院議員は、「これまで北陸三県が一体となって整備を進めてきたが、敦賀以西は、北陸三県＋京都・大阪で進めることが大事」と述べた。



久和会長は、北陸の経済界を代表して「敦賀までの早期開業と大阪までのフル規格による全線整備について、国土をより強靱なものとする国家プロジェクトとして速やかに進めることを強く要望する」と述べた。

仲倉福井県議會議長より、以下の決議案が提案され採択された。



大会決議（要旨）

北陸新幹線は、複軸型の国土構造の核となる重要な路線であり、災害対応はもとより、経済成長の実現の観点から、国土強靱化を図る国家プロジェクトとして、優先して整備すべきである。次の事項の実現を強く求める。

- ① 工期を短縮して、敦賀までの1年でも早い完成・開業を実現すること
- ② 整備に必要な財源については、公共事業費の拡充や新規着工区間の貸付料の前倒し活用などにより、十分確保すること。
- ③ 敦賀以西については、整備計画どおり若狭ルートの実現に必要な調査を速やかに進め、早期に決定すること。

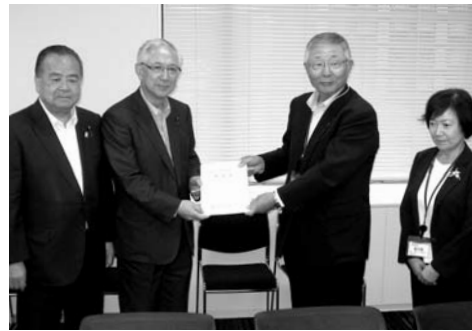
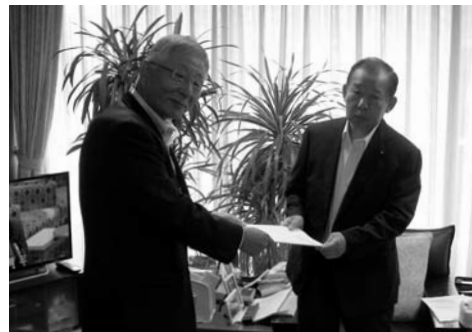
政府予算等に対する要望活動

平成27年7月30日(木)、久和会長が、自民党幹事長の谷垣禎一議員、総務会長の二階俊博議員、政調会長の稲田朋美議員、公明党幹事長の井上義久議員、中央幹事会会長の漆原良夫議員と面談。要望書に基づき、北陸新幹線をはじめとする社会インフラ整備促進、広域観光、産業競争力強化、東京一極集中の是正に向けた地域力向上などに向けた支援、持続的な経済成長を実現できるエネルギー政策の実施などを要望した。特に、北陸新幹線については、平成34年度末までの確実な敦賀開業、大阪までのフル規格による早期全線整備を強く要望した。

その後、翌31日(金)にかけて、国土交通省、経済産業省をはじめとする関係省庁^(※)や北陸三県選出国會議員などに要望書を提出した。

※内閣府、総務省、法務省、外務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、中小企業庁、資源エネルギー庁、国土交通省、観光庁、環境省

今回は、久和会長の他、浅野女性部会長と森田女性部会副部会長、山崎金沢大学長も要望活動に参加した。



政府に対する北陸経済界からの要望事項

I 地域の自立発展・代替補完機能発揮に向けた社会インフラ整備促進

1. 広域交通ネットワークの整備促進

(1) 北陸新幹線の建設促進

- ・金沢・敦賀間の平成34年度末までの確実な完成・開業と敦賀での接続の向上
- ・平成34年度末までの敦賀開業を前提とした、より一層の早期開業効果発現のための金沢・福井間の先行開業に関する、与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームの議論を踏まえた

検討

- ・大阪までのフル規格による早期全線整備
- (2) 並行在来線への支援
 - ・地域住民の重要な交通手段であり、日本海側の貨物輸送も担う並行在来線の存続と利用者の利便性向上のため、三セク会社の収支改善に向けた更なる国の支援、JRからの協力・支援の実現など、新たな仕組みの構築による地元負担の最大限の軽減
- (3) 高規格幹線道路の建設促進と利用促進
 - ・中部縦貫自動車道の早期全線開通に向け一日も早い「永平寺IC－上志比IC」「大野IC－油坂出入口」間の整備促進
 - ・能越自動車道の早期全線開通に向け一日も早い「田鶴浜IC－七尾IC」間の早期工事着手、「輪島IC－能登空港IC」間の整備促進
 - ・東海北陸自動車道の早期全線4車線化のための「飛騨清見IC－小矢部砺波JCT」間の早期工事着手、「白鳥IC－飛騨清見IC」間の整備促進
 - ・舞鶴若狭自動車道の早期全線4車線化のための「敦賀JCT－舞鶴西IC」間の早期工事着手、「舞鶴西IC－綾部PA」「綾部IC－福知山IC」間の整備促進
 - ・高速道路料金の割引制度の見直し、拡充
- (4) 航空ネットワークの充実
 - ・国内地方路線網の維持・拡充、利便性の向上（運航時間帯延長、乗継時間短縮等）、乗継割引運賃制度の拡充等の適切な指導を通じた北陸の空港の活性化
 - ・国内外旅客のための新規路線開設および国際航空貨物の拡充

2. 港湾の整備促進と機能強化に向けた支援

- (1) 港湾の整備促進
 - ・北陸の日本海側拠点港の計画実現に必要な機能強化のための事業の実施
 - ・北極海航路利用拡大等の国際物流環境の変化に対応する北陸の日本海側拠点港の整備促進
- (2) 物流機能の強化
 - ・北陸港湾が太平洋側港湾の代替機能を果たすためのインフラ整備（国際物流ターミナル等）と災害に対応する港湾の連携に関する方針の策定

3. 自然災害に対応する社会基盤、企業設備等の充実・強化

- (1) 自然災害に強い国土づくり
 - ・山、白山砂防事業や各河川の治水事業・整備改修、森林再生など水害・土砂災害に対する対策の拡充
 - ・津波、海岸侵食等に対応する海岸保全事業の促進
 - ・公共施設の耐震化など、地震防災対策の拡充
- (2) 防災・減災対策を促進する税制の支援
 - ・防災・減災対策で取得した資産に対する支援等の拡充

II 持続的な経済成長に向けたエネルギー政策の実施と低炭素社会・省エネ社会の形成促進

1. 原子力発電の信頼回復と電力の安定供給へ向けた政策の推進

- (1) 電力の安定供給と電気料金抑制に向けた、原子力発電所の迅速な安全確認と早期運転再開
- (2) 原子力を巡る国の対応についての原子力立地自治体および国民への説明責任の全う

2. 産業の国際競争力確保、エネルギーセキュリティ等の観点を踏まえたエネルギー政策の推進

- (1) 原子力、石炭等のベースロード電源や天然ガス、再生可能エネルギー等を組み合わせた最適なエネルギーミックスの推進
- (2) エネルギーセキュリティに資する設備（広域ガスパイプライン等）の整備や調査（メタンハイドレート・地熱等）への支援
- (3) エネルギー政策・エネルギーミックスの観点を踏まえた適切な地球温暖化対策計画の策定
- (4) 低炭素社会の実現に資する技術開発の促進

- (5) 省エネ・環境対応製品の普及、CO₂削減に向けた企業や家庭での取組みに対する支援
 - ・固定価格買取制度の抜本的見直しも含めた持続可能な再生可能エネルギーの導入促進策の検討・実施
 - ・燃料電池等の省エネ設備の家庭への普及、企業のコージェネレーションシステムや天然ガス燃料転換設備、水素供給設備等の導入に対する支援策の拡充
 - ・優良住宅（省エネ性、耐震性、耐久性等）や省エネ家電、環境対応型次世代自動車（燃料電池自動車（FCV）、電気自動車（EV）等）の普及支援の継続・拡充

Ⅲ 地方創生に向けた支援強化

1. 地域産業の持続的成長に向けた支援

- (1) 北陸地域における産学金官連携への支援拡充
 - ・「北陸ライフサイエンス産業クラスター構想」および「北陸高機能新素材産業クラスター構想」を支援する事業の拡充（地域再生戦略交付金の継続的な支援、戦略産業支援のための基盤整備事業、革新的ものづくり産業創出連携促進事業、医工連携事業化推進事業等）
 - ・地域イノベーション戦略支援プログラムなど地域における技術開発、科学技術およびソーシャルイノベーションを振興する事業の新設および拡充
 - ・活動中の国直轄プロジェクトの活動予算維持に向けた支援
- (2) 企業の事業活動に資する支援策の拡充
 - ・景気変動、産業構造変化等への企業の対応を支援する雇用対策の拡充
 - ・労働力の流動性を促進する雇用制度の拡充
 - ・ビッグデータなど、企業の競争力強化に資するICT利活用に対する支援の拡充（利活用手法の研究・普及、人材育成への支援、行政データの開示拡大等）
 - ・企業の成長力・競争力強化に向けた設備投資・研究・技術開発等への減税など、企業の新たな投資に対する支援の拡充
 - ・中核人材・高度技能対応や外国人留学生の活用等、グローバル化に対応する人材育成事業における支援の拡充
 - ・データのバックアップや建物耐震化などによる事業継続性の向上や、事業承継の円滑化のための支援の拡充
- (3) 新技術・新事業の創出に向けた支援の拡充
 - ・ものづくり企業の国際競争力強化および新事業創出の促進に資する支援事業の拡充
 - ・漢方薬原料の国内産確保に向けた、薬用植物の露地栽培の拡大や、植物工場で栽培した薬用植物の積極的活用の支援
 - ・和漢薬を世界標準にするための積極的な支援
 - ・6次産業化に資する農商工連携や地域資源活用における販売促進施策等の支援策の拡充
- (4) 産業競争力強化に資する大学等の研究活動への支援の拡充
 - ・科学研究費助成事業の拡充
- (5) 企業のグローバル事業展開に対する支援
 - ・TPP等（日中韓FTA、EUとのEPA等）の国益にかなう経済連携交渉の推進
 - ・模倣品・海賊版拡散防止条約（ACTA）の早期実現、ACTAへの中国等の参加拡大など、知的財産権保護の体制整備
 - ・安全保障貿易管理に係る法体系の整理・簡素化および相談窓口の拡充
 - ・海外への販路開拓等の海外事業を支援する制度の簡素化および拡充

2. 北陸の地域力向上に向けた取組みへの支援

- (1) 女性が働き続けられる社会の実現への支援
 - ・男女問わずに多様に働き続けられる環境整備への支援（長時間労働撤廃、介護退職の防止、男女問わない人事評価システムの公正な運用の支援、女性のキャリア構築支援等）
 - ・女性の社会での活躍を支えるための地域ぐるみによる子育て支援とモデル事業への支援（地

方に暮らす女性やシングル・貧困女性なども含めたあらゆる女性が活躍できるための、学童保育見直し、学校施設等の地域への開放、元気な高齢者の活用等)

- (2) 人・企業の流れを大都市圏から地方に向けるための支援
 - ・企業・政府機関の地方都市への移転や外資誘致、UIJターンなどの地方定着、地方回帰に対する支援
 - ・地域産業の担い手、実践的な人材確保に向けたインターンシップ事業の拡充
- (3) 地方の特色を活かした地方大学の機能維持に向けた支援

3. 観光振興に向けた支援

- (1) 観光立国実現のためのインバウンド（海外からの誘客）の促進
 - ・北陸新幹線活用等による新しい広域観光ルート（東京－北陸－大阪を通るルートや昇龍道等）開発に向けたビジットジャパン事業の拡充
 - ・訪日ビザ（査証）発給要件の緩和およびサービス産業への就労ビザの拡大
 - ・北陸の空港・港湾における迅速な出入国手続き等のための体制の拡充
 - ・日本の伝統を残しながら、時代に即した風情のある美しい暮らしが息づく北陸の認知度向上、誘客に向けた支援
 - ・国際会議等（MICE）、大型クルーズ船の北陸への誘致に向けた支援
- (2) 北陸広域観光の推進・強化
 - ・北陸地域が推進する広域観光周遊ルートの形成促進など、地域振興の促進
- (3) 観光まちづくり・ニューツーリズムへの対応
 - ・歴史的環境形成に対する支援
 - ・ニューツーリズム（文化観光、エコ、スポーツ等）に対する研究開発・普及に対する支援
 - ・教育旅行、産業観光の北陸への誘致に向けた支援
- (4) 観光インフラの充実
 - ・観光・交通案内板（バスロケーションシステムや外国語表記等）、観光案内所に対する支援の拡充
 - ・天気予報等の北陸の適切な観光情報発信に向けた支援
 - ・スマートフォン等の通信インフラ（無料Wi-Fi等）や先進的なアプリケーション等のICTを活用した観光情報システム構築・発信（外国語・日本語）に対する支援
 - ・ボランティアガイドや地域の語り部、通訳等、観光を担う人材育成に対する支援の拡充
 - ・北陸への観光客増加に資する二次交通の充実に向けた支援

4. 街の賑わい創出や生活機能確保に向けた取り組みへの支援

- (1) 環境や人に優しい地域公共交通システムの整備など、中心市街地活性化事業の促進
 - ・地域公共交通確保維持改善事業の拡充
- (2) 過疎地域における生活機能（交通、地域医療など）、物流機能の確保
- (3) 北陸の魅力を活かした大規模国際展示場／国際会議場設置への支援
- (4) スポーツ振興による地域活性化に向けた支援（スポーツ施設整備等）

5. 地方分権改革の推進

- (1) 地方分権改革の推進
 - ・地方への権限・税財源の一体的移譲および東京一極集中の是正など国民的議論を尽くした上での地方分権改革の推進
 - ・北陸三県一体に資する国の出先機関の管轄見直し（経済産業局、地方整備局、地方運輸局等）

IV 税制の一体的・抜本的改革

- (1) 産業の国際競争力強化に資する法人税の早期かつ十分な引き下げ

北陸デスティネーションキャンペーン 共同記者会見

平成27年8月25日(水)、金沢市内のホテル金沢において、北陸デスティネーションキャンペーン実行委員会は、キャンペーン開催について共同記者会見を行い、実施内容について発表した。

当会は、富山・石川・福井の各県と各県観光連盟、JR西日本金沢支社とともに、実行委員会に参画し、一昨年より実施に向け検討を続けてきた。

このキャンペーンは、北陸新幹線が開業した北陸を舞台に開催されるもので、期間中（10月1日～12月31日）、「美観」「美食」「美技」「美湯」「美心」の5つの美をテーマに、北陸ならではの自然や歴史的な名所、味覚や温泉などの豊かな観光資源を存分にお楽しみいただく旅が提案される。心のもった「おもてなし」で全国のお客さまをお迎えし、2度3度と訪れるリピーターとなっていただくことを目指していく。

詳細については、キャンペーン向けにリニューアルされた「北陸物語」ホームページをご覧ください。

北陸物語アドレス <http://monogatari.hokuriku-imageup.org/index.html>



第16回 北陸(日本)・韓国 経済交流会議

1. 開催概要

(1) 日 時：平成27年8月28日(金)

(2) 開催場所：ロッテホテル蔚山（ウルサン）〔韓国、蔚山広域市〕

(3) 出席者：

① 北陸(日本)側

経済産業省、中部経済産業局、富山県、石川県、福井県、北陸経済連合会、北陸AJEC、
(一財)北陸産業活性化センター、JETRO、富山県/石川県/福井県各商工会議所・同連合会、
(一財)日韓産業技術協力財団、北陸企業、大学関係者など ー総勢53名

② 韓国側

産業通商資源部、蔚山広域市/江原道/慶尚北道/大邱広域市地方政府、(社)韓日経済協会、
韓国企業、大学関係者など ー総勢64名

2. 会議結果概要

(1) 開会挨拶

① 北陸経済連合会・北陸AJEC 久和 進 会長

今年は戦後70年、日韓国交正常化50周年の節目の年。韓国は50年前に比べGDPは約460倍に拡大、先進国の仲間入りを果たされた。その韓国と北陸の関係は深く、2014年の輸出入額では中国に次いで2位であり重要な隣国である。今回の訪問は私にとり初めての韓国であり、初めての北陸・韓国経済交流会議への参加である。この会議を機に更なる関係拡大に向け何をすればいいのか、「新たな50年に向けた日韓共同繁栄の時代へ」という今回の会議のテーマに添い、議論を深めたい。

② 韓日経済協会 李 鐘允 副会長

過去50年は日本の先進的資本主義、高度成長が韓国の経済発展をもたらし韓日両国Win-Winの関係をもたらした。一方韓日企業間では過当競争が激しくなった。これからの50年は、韓日産業間の連携をタテ型からヨコ型へ転換すると同時に、両国企業と一緒に第3国へ展開する時代である。海外では欧州はEUを北米はNAFTAをつくり共に栄えている。東アジアでも韓日が中心となり1つの経済圏を創ることに取組むべきで、その第一歩として韓日FTAの締結を希望する。両国は政治的には問題があるが、その隙間を埋める役割が我々の地域間交流であり、この会議の意味は大きい。

(2) 韓国側祝辞

● 産業通商資源部 李 相珍 通商協力局長

韓国にとり、日本は第3位の貿易相手国であり非常に重要なパートナーである。2000年に第1回目を開催した北陸(日本)・韓国経済交流会議は今回が16回目となり今までに両地域の約2,500名が参加したとお聞きしている。両国間の真のパートナーシップ構築に役立ってきた。昨日頂いた冊子「北陸のシェアトップ100」の中に世界でのシェアが50%を超えるような素晴らしい企業が多数あることを知った。今後こういった北陸企業との連携も深めていくことができれば幸いである。日本

はアベノミクス効果で経済の活性化が進んでいる。一方韓国は青年の失業率が高く、その1つの解決策が日本企業との連携、即ち韓国の若手の採用やインターンシップによる受入と考えており、今後の協力を期待したい。2050年に向け、北東アジアにおいて環日本海諸国との連携が地政学的にも重要と考えている。北陸とは医療、観光、炭素繊維といった分野でのバリューチェーン構築を一緒に考えていきたい。



挨拶をする久和会長

(3) 全体会議

両国・両地域の経済の現状分析や両地域間の連携の可能性など両国関係者が発表。

(4) 専門分科会

2つのテーマのもと、発表者と参加者が意見交換し、具体的な連携の可能性について話し合いを実施。

- ① 観光産業専門分科会
- ② 複合医療専門分科会

3. その他

(1) 韓国若手の北陸企業での採用やインターンシップの推進

産業通商資源部 李 相珍 通商協力局長、韓日経済協会 李副会長より本要請を受ける。今後北陸経済連合会会員企業等での採用可能性について検討する。

(2) 企業マッチングなど

- ① 蔚山（ウルサン）中小企業連合会と北陸経済連合会、北陸AJEC、北陸産業活性化センター、富山県新世紀産業機構、JETROが面談。今後両地域の企業マッチングの可能性を検討することで合意。

② 北陸ライフサイエンスクラスターと原州（ウォンジュ）医療機器テクノバレーは連携に向け交流を深めることで合意。

(3) 両地域間にLCCを誘致の必要性（全体会議の質疑応答でのやり取り）

北陸から大邱（テグ）や蔚山（ウルサン）までの直線距離は約900kmであるが現在は仁川（インチョン）経由などで5時間～10時間もかかる。両地域の経済交流を発展させる為にはLCCの導入が必要なのではないかとの発言があった。

(4) 産業視察

8月27日(木)に現代自動車工業（世界で最大規模の自動車工場）、蔚山港（蔚山新港では北東アジア最大のオイルハブ港を建設中）、28日(金)に釜山新港（2014年のコンテナの取扱量1,800TEU、水深18m、大型ガントリークレーン65基保有の世界6位の規模）を視察した。

(5) 次回（2016年 第17回）会議

富山県にて開催の予定。



現代自動車の視察風景



釜山新港の視察風景

北陸環境共生会議 長野県飯田市との意見交換会



平成27年8月26日(水)から27日(木)、杉田富山県環境政策課長など各県環境政策課長で構成される北陸環境共生会議幹事会のメンバーは、環境文化都市を目指す長野県飯田市を訪れ、先駆的な施策である「おひさまプロジェクト」や「リニア新幹線駅候補地」などを視察し、飯田市と環境施策、街づくりについて意見交換した。

意見交換では、最初に、牧野市長より飯田市の環境施策について、人口減少の中、おひさま発電所・設置プロジェクト、全国的な注目を浴びる上村プロジェクト等の説明を受けた。その中で、市長はこれらプロジェクトの成功の鍵は「ボトムアップ&ボランティア」であると表現した。

また、北陸側からは、杉田富山県環境政策課長が、視察受け入れに関するお礼を述べるとともに「今回の視察を北陸の環境施策に活かしたい」と挨拶。事務局より各県環境フェアへの出展、北陸の環境技術・製品事例を紹介した「北陸のエコテクノロジー、エコプロダクツ」の冊子や北陸新幹線金沢開業後の北陸地域の状況を説明した。

参加者からは、「北陸と南信州という風土の違いはあり、同じ施策が実施できるかはわからないが、大いに刺激を受けた」との感想が聞かれた。



イノベーション推進事業部だより

高信頼システム情報交換会・北陸

【平成27年度 第1回 情報交換会】

5月25日(月)、富山市の県民会館にて、北陸先端科学技術大学院大学との共催で、「インダストリー4.0 およびIoTの最新動向と展望」と題して講演会を開催し、約70名が参加した。「インダストリー4.0」は欧州の先進工業国であるドイツが産学官を挙げて推進しているものづくりの高度化プロジェクトで、IoT (Internet of Things) により生産工程のデジタル化・自動化・バーチャル化のレベルを大幅に高める取り組みであり、参加者は、(株)野村総合研究所 上席スタッフ 足立興治氏、三菱電機(株) 主管技師長 河田 薫氏より、それぞれ「次世代製造業の新しい潮流ードイツの取り組みを踏まえながらー」、「モノづくりの将来像とFA統合ソリューションe-F@ctory」と題した最新動向を聴講した。



(株)野村総合研究所
足立上席スタッフ



三菱電機(株)
河田主管技師長

【平成27年度第2回情報交換会】

6月29日(木)、金沢市のITプラザ武蔵にて、北陸先端科学技術大学院大学との共催で、「IoT/M2Mの最新動向と展望」と題して講演会を開催し、約70名が参加した。情報通信技術・機器や情報処理システムの高度化により、あらゆるモノがインターネットにつながるIoT (Internet of Things)/M2M (Machine to Machine) の影響は様々な領域におよび産業の在り方が抜本的に変わっていくことが想定されており、参加者はその最新動向について以下の講師より聴講した。

- 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科教授 丹 康雄 氏
「IoTの広がりと社会的意義」
- KDDI(株) 技術開発本部 標準化推進室 マネージャー 山崎 徳和 氏
「oneM2M標準化動向と今後の展開について」
- (株)富士通研究所 ネットワークシステム研究所 主幹研究員 松倉 隆一 氏
「IoTサービス事例とそのプラットフォーム」



北陸先端科学技術大学院大学
情報科学研究科 丹教授



KDDI(株) 標準化推進室
山崎マネージャー



(株)富士通研究所
松倉主幹研究員

主要経済指標

項目	鉱工業生産指数 (季節調整値)				大型小売店販売額				乗用車新車登録・届出台数			
	平成22年=100、%				億円、%		百万円、%		台、%		台、%	
地域	全国		北陸		全国		北陸		全国		北陸	
	指数	前期比	指数	前期比	金額	前年比	金額	前年比	台数	前年比	台数	前年比
平成26年	99.0	102.1	115.9	105.0	201,973	100.9	366,846	101.5	4,693,197	103.0	139,307	101.8
26年7月	97.5	99.9	114.5	100.4	17,177	99.4	30,365	100.2	390,763	97.4	11,381	97.3
8月	96.7	99.2	115.3	100.7	16,266	101.6	30,729	102.2	280,966	90.5	7,510	85.6
9月	98.1	101.4	118.6	102.9	15,313	100.5	27,797	102.5	431,192	96.8	12,253	93.8
10月	98.5	100.4	121.4	102.4	16,065	100.0	28,920	101.3	327,730	92.6	9,439	91.3
11月	97.9	99.4	120.6	99.3	17,286	101.1	31,417	102.2	339,152	89.7	9,778	88.2
12月	98.1	100.2	123.5	102.4	21,558	100.1	37,214	99.7	359,610	100.3	9,543	97.1
27年1月	102.1	104.1	122.9	99.5	17,215	100.0	33,804	100.1	343,615	79.3	8,476	82.0
2月	98.9	96.9	120.8	98.3	14,986	101.3	27,900	99.8	412,742	84.3	13,277	87.9
3月	98.1	99.2	118.0	97.7	17,150	87.0	30,237	89.1	586,061	88.1	22,624	88.4
4月	99.3	101.2	121.4	102.9	16,080	108.6	29,447	104.6	263,232	89.9	7,461	85.0
5月	97.2	97.9	119.6	98.5	16,928	105.3	31,019	105.7	279,029	91.8	7,813	90.6
6月	98.3	101.1	123.1	102.9	16,412	99.7	30,234	100.3	364,509	96.2	10,645	97.1
7月	97.7	99.4	—	—	17,056	102.1	30,777	100.3	—	—	—	—
資料	経済産業省		中部・近畿経済産業局		経済産業省		中部経済産業局		北陸財務局			

項目	新設住宅着工戸数				有効求人倍率		消費者物価指数 (総合)			
	千戸、%		戸、%		倍率(季調値)		平成22年=100、%			
地域	全国		北陸		全国	北陸	全国		金沢市	
	戸数	前年比	戸数	前年比	倍率	倍率	指数	前年比	指数	前年比
平成26年	880	89.2	15,841	88.6	1.11	—	平成26年 102.8	102.7	101.4	102.8
26年7月	73	85.9	1,666	119.3	1.10	1.38	103.4	103.4	102.0	103.7
8月	74	87.5	1,226	76.4	1.10	1.39	103.6	103.3	102.4	103.6
9月	76	85.7	1,385	82.9	1.10	1.39	103.9	103.2	102.5	103.6
10月	79	87.7	1,527	73.4	1.10	1.41	103.6	102.9	102.4	103.2
11月	78	85.7	1,395	77.1	1.12	1.44	103.2	102.4	102.2	103.1
12月	76	85.3	1,263	81.7	1.14	1.48	103.3	102.4	102.0	102.7
27年1月	68	87.0	881	92.3	1.14	1.50	103.1	102.4	101.8	102.7
2月	68	96.9	1,039	110.6	1.15	1.50	102.9	102.2	101.2	102.3
3月	70	100.7	1,515	129.8	1.15	1.50	103.3	102.3	101.8	102.6
4月	76	100.4	1,340	104.0	1.17	1.49	103.7	100.6	102.3	100.8
5月	72	105.8	1,259	103.4	1.19	1.52	104.0	100.5	102.6	100.4
6月	88	116.3	1,963	136.5	1.19	—	103.8	100.4	102.5	100.4
7月	78	107.4	1,455	87.3	1.21	—	103.7	100.2	102.4	100.4
資料	国土交通省				厚生労働省	北陸財務局	総務省		石川県統計課	

項目	企 業 倒 産							
	件 数				負 債 総 額			
単 位	件、%				億円、%		百万円、%	
地 域	全 国		北 陸		全 国		北 陸	
	件 数	前年比	件 数	前年比	金 額	前年比	金 額	前年比
平成26年	9,731	89.7	250	83.9	18,741	67.4	45,585	88.6
26年 8月	727	88.8	18	100.0	1,358	81.7	1,363	87.0
9月	827	100.8	16	88.9	1,368	72.0	3,045	160.7
10月	800	83.5	20	87.0	1,241	79.9	2,793	185.5
11月	736	85.4	20	77.0	1,155	83.8	5,747	111.0
12月	686	91.5	11	55.0	1,783	132.6	484	22.5
27年 1月	721	83.5	18	72.0	1,681	53.4	946	38.3
2月	692	88.5	16	94.2	1,512	130.1	2,965	67.2
3月	859	105.5	16	94.2	2,236	191.1	6,034	1,573.4
4月	748	81.9	22	91.2	1,928	136.6	75,488	1,706.5
5月	724	86.9	18	64.3	1,278	74.1	3,410	40.3
6月	824	95.3	19	95.0	1,269	66.1	756	29.4
7月	787	89.2	18	81.8	1,201	92.7	4,591	115.8
8月	632	86.9	10	55.6	979	72.1	634	46.5
資 料	東京商工リサーチ							

会員サービスの向上にむけて

昨年より、会報編集を担当させていただいております青嶋です。
 皆様に読んでいただき、御活用いただける、よりよい誌面を目指してまいります。ご意見・ご要望等ございましたら、お聞かせください。

よろしくお願い致します。

—ご意見・ご要望をお聞かせください。—

【担当】北陸経済連合会 青嶋

TEL : 076-232-0472 FAX : 076-262-8127

E-mail : aoshima@hokkeiren.gr.jp

平成27年度

北経連スケジュール

北経連主要行事

開催日 (予定を含む)		主要行事	備考
平成 27 年	4月7日	平成27年度 第1回 広域観光推進委員会	金沢市
	4月9日	平成27年度 第1回 総合対策委員会	金沢市
	4月10日	平成27年度 第1回 総合対策委員会 女性部会	金沢市
	5月19日	・第328回 常任理事会 ・第94回 理事会 ・平成27年度 定期総会 ・特別講演 ・懇親交流会	金沢市 (金沢ニューグランドホテル)
	5月25日	富山県北陸新幹線対策連絡協議会・北陸新幹線 建設促進富山県民協議会 合同決起大会	富山市
	5月27日	北陸新幹線建設促進大会・北陸新幹線建設促進同盟会 総会及び中央要請	東京都
	6月1日	平成27年度 第2回 総合対策委員会 女性部会	金沢市
	6月5日	第1回 医工融合研究会	野々市市
	6月9日	第7回 北陸地域連携プラットフォーム	金沢市
	6月29日	高信頼システム情報交換会	金沢市
	7月9日	平成26年度 第2回 総合対策委員会	金沢市
	7月9日	第2回 北陸産学連携懇談会	金沢市
	7月11日	北陸新幹線建設促進石川県民会議総会	金沢市
	7月25日	福井県北陸新幹線建設促進同盟会総会	福井市
	7月30日	政府に対する要望活動	東京都
	8月5日	第329回 常任理事会	金沢市
	8月7日	会員懇談会(石川会場)	金沢市 (ANAクラウンプラザホテル金沢)
	8月25日	北陸デスティネーションキャンペーン共同記者会見	金沢市
	8月27日・28日	第16回 北陸(日本)・韓国経済会議	蔚山市
	8月31日	中部の観光を考える百人委員会及び第12回中央日本交 流・連携サミット	名古屋市
以下予定			
平成 27 年	9月11日～12日	第20回 三経連経済懇談会	札幌市
	9月28日	会員懇談会(富山会場)	富山 (グランテラス富山)

開催日 (予定を含む)		主要行事	備考
平成27年	10月2日	第57回 西日本経済協議会総会	福岡市
	10月7日	会員懇談会（福井会場）	福井市 (ザ・グランユアーズフクイ)
	10月8日～9日	北陸技術交流テクノフェア	福井市
	10月20日	三経連経済懇談会要望活動	東京都
	10月23日	西日本経済協議会要望活動	東京都
	10月	湘南・北陸連携カンファレンス	鎌倉市・藤沢市
	11月11日	第42回（一社）日本経済団体連合会との経済懇談会	富山市 (ANAクラウンプラザホテル富山)
	11月16日	あいの風とやま鉄道利用促進協議会	富山市
	11月17日	北陸新幹線の整備促進についての合同中央要請	東京都
	11月	平成27年度 第1回 国際交流推進委員会	金沢市
	11月	平成27年度 第1回 先端技術推進委員会	金沢市
	11月	平成27年度 第2回 広域観光推進委員会	金沢市
	11月	平成27年度 第1回 北陸産学連携交流会	金沢市
	12月16日	第330回 常任理事会	金沢市
	12月	平成27年度 第1回 社会基盤整備委員会	金沢市
	12月	平成27年度 第3回 総合対策委員会	金沢市
	平成28年	1月26日	新春経済懇談会
2月1日		第5回 北陸フォーラム	東京都
2月		湘南・北陸ウィーク	鎌倉市・藤沢市
2月		第23回 北陸・近畿地方整備局、北陸信越・中部運輸局との懇談会	金沢市
3月		平成27年度 第2回 北陸産学連携交流会	金沢市
3月		平成27年度 第2回 国際交流推進委員会	金沢市
3月		第22回 中部・近畿経済産業局との懇談会	福井市
3月		平成27年度 第2回 先端技術推進委員会	金沢市
3月		平成27年度 第2回 社会基盤整備委員会	金沢市

BRIDGE 株式会社ブリッジ

会社概要

会社名 株式会社ブリッジ
代表者名 代表取締役 橋脇 典子 (はしわき のりこ)
所在地 福井県福井市日之出2丁目9番24号
TEL: 0776-27-1440 FAX: 0776-27-1442
設立 平成13年1月
資本金 100万円
従業員数 3名、非常勤講師 3名
事業内容 社員研修事業、翻訳業務
HPアドレス <http://www.bridge.jp>



代表取締役
橋脇 典子

会社紹介

株式会社ブリッジは、人材育成全般のコンサルティングと社員研修を行っている会社です。実践経験が20年以上の専門の講師がクライアントの問題に対して、解決型オーダーメイドの研修プログラムを企画し、講師を務めます。

コンサルティングは大きく分けて以下の3つを行っています。

- ①組織全体の体系別教育のプログラム作成
- ②販売・サービス現場への覆面調査と、改善提案及び研修の実施
- ③採用試験の見直し（面接の評価シート、筆記と実技試験の作成）

いずれも、現場において実践的かつ具体的に、行動から変わるための研修です。

経営理念

社員が前向きになると、会社は上向きになる。ブリッジはクライアントの目標や戦略を実行するための「戦力」を強化するため、クライアントと一緒に前を向いて、一歩ずつ確実に進めていきます。

【研修ポリシー】

“成長と変化を楽しもう”

今後の取り組み

確実に研修効果を出すための取り組みを行って行きます。

- ①研修後の個別評価シート、3ヶ月間の課題シートと振り返り、次への課題というPDCAを回していくシステムを提案していきます。
- ②ゲームで楽しく学べる、体験型研修キット・メソッドの開発と販売を行っていきます。
- ③研修講師の内製化のための、社内講師を養成するプログラム、主に業種に応じた女性管理職養成を提案していきます。

製品紹介、サービス紹介

- 新入社員、中堅社員研修、新任管理職研修等、体系別研修
- メンタルトレーニング研修
- 段取り力と改善力研修
- 少人数の短時間スポット研修
- 接客販売員向けスキルアップ研修
- 医療機関向け接客研修
- 社内指導者養成講座



弊社研修室



株式会社 トゥー・アー・ティー

会社概要

会社名 株式会社 トゥー・アー・ティー
代表者名 代表取締役 堀内 康代 (ほりうち やすよ)
所在地 福井県福井市高木中央1丁目2502-3
 TEL：(代表) 0776-57-1212 (IT) 0776-57-1216
 FAX：0776-57-1215
設立 平成6年
資本金 3,500万円
従業員数 26名 (契約講師 80名)
事業内容 フィットネスクラブ・ヨガスタジオ・カルチャー教室運営/
 コンサルティング/受託業務/研究/人材育成/
 ITソリューション&デザイン業務/物販業務
事業所 福井本社、東京出張所
HPアドレス <http://www.to-a-t.net/>



代表取締役
堀内 康代

会社紹介

株式会社トゥー・アー・ティーは、カルチャースクールを中心に、教育・文化・スポーツ・福祉・IT等、様々な分野において、地域や社会に貢献できる、なくてはならない企業となる事を目指しています。

トゥー・アー・ティー (to.a.T) という社名は、「あなたにぴったりの」という意味があります (※ゴルフティーにボールが《完全に・正確に》乗っている様子からできた略式語)。豊かな生活・有意義な人生を送る為に、人々に“ぴったり合った”方法・サービスを、当社独自のノウハウを通して提案しています。

経営理念

当社の経営理念は「より良く生きる」。

健康な身体があるからこそ、心も健康になれます。心が健康だからこそ、笑顔になれます。そして笑顔が広がり、人の輪が広がります。この「より良く生きる」ためのサイクルを目指し、一生懸命笑顔で過ごすアクティブライフの創造を、お客様の立場に立ち、知恵をもってご提供します。

よりかごから墓場まで、人々の人生をより豊かに、より健やかに、より良く生きる為のサポートをいたします。

製品紹介、サービス紹介

当社は、「教育・文化・スポーツ」の分野でゆりかごから墓場までのサポート事業を行なっています。自社ブランドを立ち上げ、地域や社会において、なくてはならない企業を目指しています。

■自社ブランド



まなびサイト
スポーツ&カルチャー教室



B&K Labo
子ども教室



Livestation
女性のための
フィットネスクラブ



BRUSH
ダンススタジオ



THE BODY
ヨガスタジオ

北陸大学

学校概要

学校名 学校法人 北陸大学
代表者名 理事長・学長 小倉 勤 (おぐら つとむ)
所在地 石川県金沢市太陽が丘1丁目1番
TEL：076-229-1161(代表) FAX：076-229-1393
設立 昭和50年2月
学部・学科 薬学部 薬学科
未来創造学部 国際教養学科、国際マネジメント学科
学生数 1,987名
HPアドレス <http://www.hokuriku-u.ac.jp>



理事長・学長
小倉 勤

沿革および建学の精神

昭和50年2月15日、学校法人松雲学園(昭和60年7月に学校法人北陸大学へ名称変更)を設置し、北陸大学を開学しました。

建学の精神である「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」の言葉の下、薬学部を設置し、地域医療に貢献できる薬剤師並びに薬学技術者を育成してきました。昭和62年3月には新たに太陽が丘キャンパスを開設。同年4月に外国語学部、平成4年に法学部を設置しました。

平成16年に外国語学部と法学部を統合し、未来創造学部を設置、今日に至ります。

特色

北陸大学薬学部では、医療人としての倫理観、使命感、責任感及び高度な薬学の知識・技能を身につけ、臨床の現場で実践的な能力を発揮できる薬剤師を養成するため、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠したカリキュラムに加え、特長ある本学独自の実践的な授業を展開しています。病院や薬局等における体験学習の他、人体模型や模擬病棟等の施設を使った実習など、実践力を養う教育を重視しています。

未来創造学部では、社会で求められている社会人基礎力を鍛えるために広い視野とコミュニケーション力、課題発見・解決力を養います。1年次にはファースト・ステップ・プログラムとして、社会を知り、卒業後の将来に向けて意識を高めるためのキャリア教育も導入しました。国際教養学

科、国際マネジメント学科ともに2年次からはコースに分かれて専門性を深め、複雑化するグローバル社会の課題について、仲間と協働して自ら答えを出す力を身につけます。

地域連携・貢献事業

本学が有する人的・知的資源を地域課題解決に役立てるために平成26年4月に地域連携センターを設立しました。

金沢市、加賀市、輪島市そして小矢部市と連携協定を締結し、地域が抱える課題に協力して取り組んでいます。

また、北陸3県の薬剤師会とも包括連携協定を締結し、薬剤師対象の研修会を開催するなど、地元で活躍する薬剤師に生涯教育の場を提供しています。産業界では、兼六園観光協会や、金沢青年会議所と連携しています。兼六園内で、学生がボランティアガイドを務めるなど、未来創造学部で培った、コミュニケーション力と語学力を生かしたボランティア活動を積極的に行っています。

今後も、薬学部と未来創造学部のそれぞれの特色を生かして薬学・医療、国際交流、経済・経営・法律・語学・観光・文化等の分野において地域が抱える様々な課題に向き合うことで地域社会に貢献すると共に、学生には新たな学びの場を提供していきます。

北陸大学地域連携センターは、地域と教職員、学生の3者を繋ぐ窓口として、地域連携・貢献事業に積極的に関わって参ります。



富山県立大学

学校概要

学校名 公立大学法人 富山県立大学
代表者名 理事長 寺井 幹男 (てらい みきお)
所在地 富山県射水市黒河5180
 TEL : 0766-56-7500 FAX : 0766-56-6182
設立 平成27年4月 (開学年 平成2年)
学部 工学部
大学院 工学研究科
学生数 工学部 1,027名、大学院工学研究科 172名
HPアドレス <http://www.pu-toyama.ac.jp/>



理事長
寺井 幹男

沿革

富山県立大学は、富山県立技術短期大学（昭和37年開学の富山県立大谷技術短期大学を昭和47年に改称）を前身とし、技術立県の新たな拠点として工学系の高等教育機関の充実が求められるなか、日本海側初の工学系公立大学として開学しました。

平成27年4月に地方独立行政法人化し、これまで以上に機動性、透明性を高めるとともに、今後6年間の中期目標を定め、①学生を大きく伸ばす教育力の高い大学（地域産業や国際社会で活躍する人材の育成）、②未来を志向した高度な研究を推進する大学（ERATO事業等の最先端研究や地元企業との共同研究）、③広く開かれ地域に貢献する大学（地域の知の拠点）を目指すこととしています。

特色

「人間性豊かな技術者の育成につながるカリキュラム編成」…4年間を通じた少人数ゼミ、1年次からの専門教育の実施、民間企業からの応募テーマによる「卒業研究」の実施など、各学科が明確な目標のもとで特色ある教育を実施しています。

「学生の自立を促すキャリア教育の実施」…専門の教職員が1年次から4年次まで、きめ細やかな指導・斡旋・情報提供で学生をサポートして

います。県内はもとより全国の主要企業に多数就職しており、毎年高い就職率を維持しています（平成27年3月卒業・修了者就職内定率：100%）。

「環境リテラシーを育む環境教育プログラムの実施」…持続可能な社会の実現に向けて、「環境への幅広い視点と倫理観」を備えた工学技術者を育成するため、全学横断型の体系的な環境教育プログラムを実施しています。

企業との連携の取り組み

- 平成16年に、県内産業界の呼びかけにより、本学と産業界との連携を深めることを目的に「富山県立大学研究協会」を設立しました（平成27年5月現在 207会員）。この動きに呼応し、地域貢献の総合窓口として、地域連携センターを開所し、多くの企業や地域の方々とともに共同研究、公開講座、交流事業など産学連携事業を積極的に展開しています（平成26年度センター来所実績 1,506企業等、技術相談 546件）。
- 平成25年に文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」に、本学が申請した「工学心でつながる地域協働型大学の構築」事業が採択されました。地域との対話・交流・協働を通じて、学生の社会参画力を育成する教育、地域課題を志向した研究、地域発展に資する社会貢献事業に取り組んでいます。

平成27年春の褒章受章者

平成27年春の叙勲・褒章で、本会会員より次の方が受章されました。
栄えあるご受章を心からお祝い申し上げますとともに、今後とも一層の
ご活躍をお祈りいたします。

(敬称略)

【褒章】 【黄綬褒章】

川 本 元 充

北陸機材株式会社 代表取締役社長 (当会会員)

訃 報

■ 黒川誠一氏 (セーレン(株) 前会長) が、平成27年5月3日に
逝去されました。

黒川氏は、昭和42年の当会発足より平成15年3月まで北経連の
常任理事、平成15年5月より平成22年5月まで顧問を務められま
した。

ここに、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

北陸物語 Facebook [出張版]



北陸物語

検索

北陸経済連合会と北陸イメージアップ推進会議は「北陸物語 Facebook」を通じて北陸の魅力の情報発信を行っております。是非ご覧ください。

<https://www.facebook.com/hokuriku.monogatari>

ここでは出張版として各県の過去の人気記事をご紹介します。

富山より

皆さん、こんにちは。富山県観光連盟の青木です。

富山県立山町の称名滝の遊歩道が通れるようになりました。

今年の称名滝は、水量が例年になく、多いような気がします。気温が高く、雪解けが早いのに加え、解ける量も多いのでしょうか。称名滝の周りに、雨の日のみに落ちる、いくつもの幻の滝？ が、晴天にも関わらず、何本も落ちています。

また、称名滝、滝壺の少し手前にある、飛龍橋からは、桜とハンノキ滝の共演を楽しむことができます。桜は、タカネサクラでしょうか。称名滝に、ようやく春が訪れたなと言う感じです。

ドライブに、ぜひ、お出かけください。



石川より

北陸イメージアップ推進会議の小林です。

7月1日お饅頭の日。ではなく「氷室の日」。

江戸時代に、加賀藩が將軍家へ氷を献上した日です。冬の間に冰雪を氷室に蓄えておき、夏になると、筵（むしろ）と笹で何重にもくるみ、桐の長持に入れ、昼夜走り続けて4日間で江戸へ運んだとのこと。

氷が無事に届けられるよう、お饅頭を備えて祈願していたことが、今に続いており、無病息災を願って、お饅頭をいただきます。

金沢市民として、食べねばなりません。事務所近くの百貨店のデパ地下へ、開店と同時にいき、7店舗から22個買い漁ってきました。それぞれのお店の味があって、いろいろ楽しめましたよ。これで、暑い夏を乗り切れそうです。



福井より

北陸物語案内人の若井です。

福井県越前市味真野小学校の

校庭には、ど真ん中に大きな桜の木があります。樹齢140年以上という巨木ですが、樹齢1000年を超えるものもあるエドヒガンでは、実はまだまだ若木の方。

最近ではその珍しい光景が話題となって、桜が咲くころになるとわか観光地の様相を呈し、小学校のHPでは桜の開花状況を伝え、見ごろになると夜間ライトアップも行っているんです。

小学校で夜桜観賞とはなかなかオツですよ。

小学校というと、セキュリティの問題もあって、普通は部外者の立ち入りは制限されますが、この桜を見たくて遠方からやってくる人も多いため、校庭に入って近くで見てもらうようにしているそうです。

ただ、授業で校庭を使っている場合などは、必ず先生にひと言断ってからお願いします。

味真野小学校HP

<http://school.city.echizen.lg.jp/ajimano/index.cfm/1.html>



新規会員ご紹介のお願い

「自然と都市機能とが共生する、
世界に開かれた産業・文化・交流の拠点
“北陸”」の実現を目指す“北経連”への
新規会員ご紹介をお願いいたします。

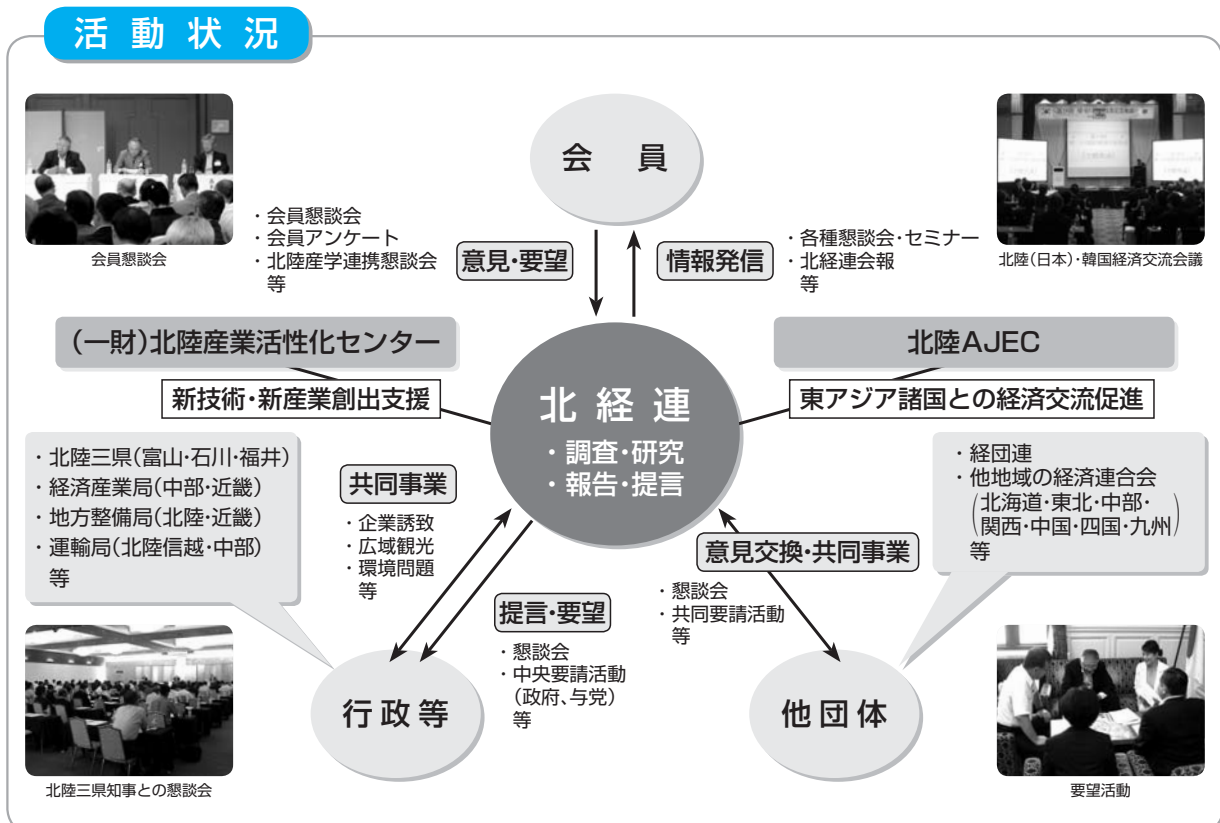
富山、石川、福井の三県からなる北陸地域は、急速に発展している東アジア諸国と日本海を介して対面しているとともに、東京、名古屋、大阪の三大都市圏に対して扇の要に位置しております。また、特色ある産業・技術の集積や豊かな自然環境、多彩な歴史・文化など多くの優れた地域特性を有しており、日本と対岸諸国との結節点として、更なる発展の可能性を秘めた地域であります。

私ども北陸経済連合会（略称：北経連）は、北陸三県をはじめとする関係機関と連携を図り、北陸新幹線や高規格幹線道路、港湾などの社会資本整備の促進、東アジア諸国との経済交流の促進、産業の振興支援等に積極的に取り組んでおります。

地域の主体性がますます重要となっている今日、これまで以上に北陸三県の経済界の総力を結集し、関係機関との連携、協働を進めていかなければなりません。

北経連の活動にご賛同いただける企業・団体の皆様のご紹介を、心よりお待ちしております。

活動状況



会員の皆様へ

北陸地域の明るい未来創造に向けた活動に一社でも多く参加していただけるよう、会員を増強し、連帯の輪を広めたく、各会員の皆様方はじめ関係各位におかれましては、関連企業や取引先企業などのうち、当連合会に未加入の企業の方々に広くお声を掛けていただき、入会ご意向のある企業を事務局まで是非ご紹介賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

入会ご希望の皆様へ

- 入会資格：本会の目的にご賛同いただける法人、団体および個人。
- 入会金：不要です。
- 年会費：1口 90,000円（1口以上）
- 入会お申し込み：下記、当会事務局までご連絡ください。

北陸経済連合会

〒920-0981
金沢市片町2-2-15
北国ビルディング4階
TEL 076-232-0472
FAX 076-262-8127
HP <http://www.hokkeiren.gr.jp/>
E-mail: info@hokkeiren.gr.jp

東京事務所

〒105-0001
東京都港区虎ノ門2-8-1
(北陸電力(株)東京支社内)
TEL 03-3502-0471
FAX 03-3502-0460



編集後記

北陸新幹線が開業して約7か月。皆さま乗られましたか。

新幹線の影響か、お盆の時期も例年より旅行者らしき方が多いような気がしました。

今年の秋は10月11日(日)福井マラソン、11月1日(日)富山マラソン、11月15日(日)金沢マラソンと北陸開催の大会がそろいました。

新幹線を利用して参加される方もいらっしゃるかもしれませんね。

また、11月6日にはカニも解禁となります。

さらに多くの方に北陸へ来ていただきたいと思えます。

ご意見・ご感想を

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしています。また、送付宛先などの変更や新規加入希望の方の情報がございましたらお知らせください。連絡先はいずれも次のとおりです。

北陸経済連合会

〒920-0981
金沢市片町2丁目2番15号
北国ビルディング4階
TEL: 076-232-0472
FAX: 076-262-8127
URL: <http://www.hokkeiren.gr.jp>
E-mail: info@hokkeiren.gr.jp

ACCESS! SUCCESS! HOKURIKU

はじめよう、北陸サクセス。

北陸国際投資交流促進会議は、国内外における北陸地域のPRに活用することを目的に、スローガンとロゴを作成しました。

パンフ・ポスター・名刺等へ入れることにより、“北陸”のPRに活用します。



はじめよう、北陸サクセス。

富山・石川・福井の北陸三県へのアクセスのしやすさ、拡大するビジネスのサクセスを表現しています。色は、富山は立山連峰や自然の緑、石川は輪島塗やベンガラの赤（紅）、福井は日本海の青を象徴しています。

R（レッド）、G（グリーン）、B（ブルー）は光の三原色でもあり、その交わり方でいろんな色の輝きを生み出すことができます。モダンでありながら日本の伝統を感じさせ、未来への発展をイメージしています。

北陸国際投資交流促進会議は、北陸地域の国際化並びに活性化を図るため、国内外企業の誘致等による資本の相互交流を目的として、昭和57年12月に設立。

（構成団体：富山県、石川県、福井県、北陸電力(株)、北陸経済連合会）



北陸経済連合会

〒920-0981 金沢市片町2丁目2番15号（北国ビルディング4階）

TEL (076) 232-0472(代) FAX (076) 262-8127

URL: <http://www.hokkeiren.gr.jp>

E-mail: info@hokkeiren.gr.jp

